

令和5年度 事業報告書

Annual report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要

・・・ 2～10

建学の精神/教育方針/設置する学校、定員及び現員/役員・評議員/教職員数
組織構成図/校舎敷地及び建物等の概要/学生・生徒志願者数推移/
学生・生徒在籍者数推移表/学生・生徒進路状況

事業実績の概要

・・・ 11～15

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況/監査法人監査報告/危機管理への取り組み/
夏期教職員研修会/教職員の健康管理体制/教職員の表彰/教職員の異動状況/
給付型奨学金・授業料減免（助成）/短期大学入学金免除制度

教育活動の実績

－高田短期大学－

・・・ 16～36

時代・社会の変化に即応した取り組み
学士力向上を目指した教育課程の展開/主体性・協調性を育む短大生活支援/
キャリア教育・キャリア支援の充実/学生募集と高大交流事業/外国人留学生支援について

地域への社会貢献事業

地域連携施設

仏教教育研究センター／育児文化研究センター／キャリア研究センター／介護福祉研究センター

その他

施設設備の整備事業の実績

－高田中学校・高等学校－

・・・ 37～56

命の大切さを考える教育の推進/きめ細やかな学習指導の推進/
ＩＣＴ教育とアクティブラーニング対策/キャリア教育の推進/部活動の推進/
危機管理・安全教育への取り組みの推進/国際理解教育推進/学校自己点検・学校関係者評価/
教職員資質向上への取り組み/生徒募集活動/施設設備の整備事業実績

財務の概要

・・・ 57～67

資金収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
活動区分資金収支計算書の概要
事業活動収支計算書の概要（全体・短期大学・中高等学校）
令和5年度補助金一覧表
貸借対照表の概要
財産目録

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。



中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。



設置する学校、定員及び現員

- ◆ 高田短期大学 三重県津市一身田豊野 1 9 5
- ◆ 高田高等学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3
- ◆ 高田中学校 三重県津市一身田町 2 8 4 3

(令和5年5月1日現在)

高田短期大学

学科名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計
子ども学科	150名	300名	139名	158名	297名
キャリア育成学科	100名	200名	92名	91名	183名
〔 オフィスワークコース	〔 60名	〔 120名	〔 58名	〔 62名	〔 120名
〔 介護福祉コース	〔 40名	〔 80名	〔 34名	〔 29名	〔 63名
合 計	250名	500名	231名	249名	480名

高田中・高等学校

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田高等学校	570名	1,690名	618名	587名	555名	1,760名

(学則定数 730 名)(3 ヶ年計 2,190 名)

	募集定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
高田中学校	190名	570名	206名	202名	187名	595名

(学則定数 240 名)(3 ヶ年計 720 名)

役員・評議員

(令和5年5月31日現在)

理 事			定数10名 実数9名
区 分	氏 名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長（学苑長）	
	清水谷 正尊	高田短期大学 学長	
	鷺尾 尚史	高田中・高等学校 校長	
第3号 評議員	井村 正勝	井村屋グループ（株） シニア・フェロー	
	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送（株） 相談役	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 理事相談役	
	松田 英明	三重牛セキ販売（株） 代表取締役社長	

監 事			定数2名 実数2名
区 分	氏 名	現職等	
監事	下津 和文	下津醤油（株） 代表取締役会長	
	山中 利之	山中利之税理士事務所 公認会計士・税理士	

評議員			定数21～25名 実数22名
区 分	氏 名	現職等	
第1号 宗務総長	増田 修一	真宗高田派 宗務総長	
第2号 学苑長 短大学長 中・高校長	梅林 久高	学校法人高田学苑 理事長（学苑長）	
	清水谷 正尊	高田短期大学 学長	
	鷺尾 尚史	高田中・高等学校 校長	
第3号 法人職員	福西 朋子	高田短期大学 子ども学科長	
	野呂 健一	高田短期大学 キャリア育成学科長	
	高梨 正	高田中・高等学校 副校長	
	眞岡 康光	高田中・高等学校 教頭	
第4号 功労者	井村 正勝	井村屋グループ（株） シニア・フェロー	
	岩崎 克彦	医療法人思源会 理事相談役	
	千草 篤磨	（福）高田真善会 理事長	
	小柴 弥生	小柴産業（株）	
第5号 卒業者	松田 英明	三重牛セキ販売（株） 代表取締役社長	
	倉田 栄治	（株）津ドライビングスクール 代表取締役	
	伊藤 博康	（有）平治煎餅本店 代表取締役	
	稲田 直子	高田短期大学育児文化研究センター 学外研究員	
第6号 本山総務	弓削 弘嗣	（宗）真宗高田派総務	
第7号 学識経験者	永井 玲子	医療法人永井病院 理事	
	志田 行弘	三重テレビ放送（株） 相談役	
	雲井 敬	三重交通グループホールディングス 監査役	
	浜田 吉司	（株）マスヤ 代表取締役会長	
	山田 瞳	楠井法律事務所 弁護士	

教職員数

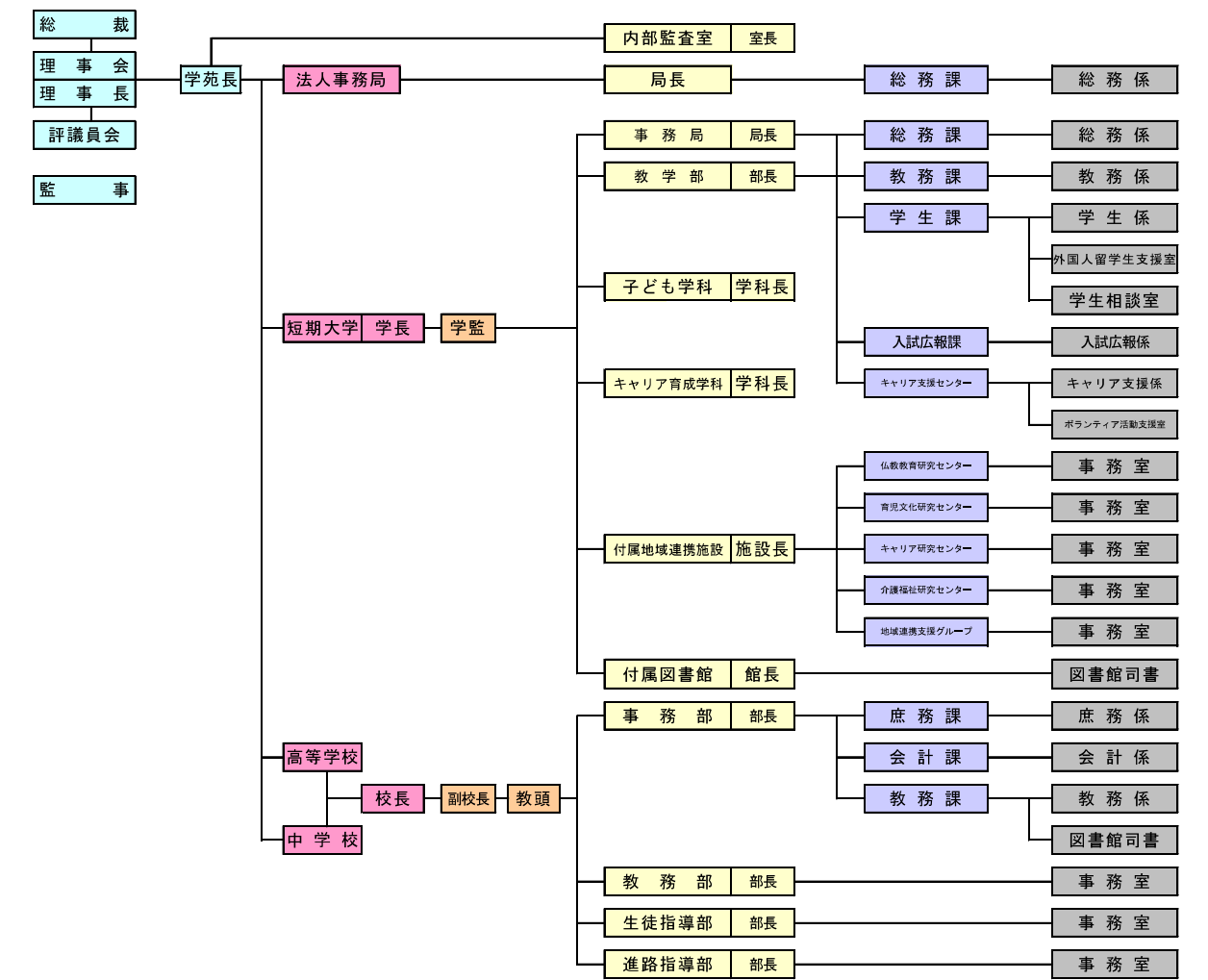
(令和5年6月1日現在)

		教 員		職 員		合 計
		本務教員	兼務教員 嘱託・非常勤等	本務職員	兼務職員 嘱託・非常勤等	
本 部		—	—	5 名	4 名	9 名
短 期 大 学	子ども学科	15 名	27 名	15 名	8 名	65 名
	キャリア育成学科	11 名	38 名	7 名	7 名	63 名
	〔 オフィスワークコース	〔 7 名	〔 20 名	〔 6 名	〔 3 名	〔 36 名
	〔 介護福祉コース	〔 4 名	〔 18 名	〔 1 名	〔 4 名	〔 27 名
高等学校		103 名	32 名	7 名	15 名	157 名
中学校		28 名	13 名	3 名	1 名	45 名
合 計		157 名	110 名	37 名	35 名	339 名

(注) 学苑長は学苑本部の本務職員に、短大学長は子ども学科の本務教員に含む。

また、短大の兼務教員数には非常勤講師の後期採用者も含む。

組織構成図



校舎敷地及び建物等の概要

区分		専用面積㎡	計面積㎡	所在地	権利の所属	備考
短期大学用地	校舎敷地	7,399	7,399	津市一身田豊野	自己所有	
	運動場用地	5,921	5,921	〃	〃	
	学生用駐車場用地	2,392	2,392	〃	〃	
	その他	3,279	3,279	〃	〃	緑地等
	計	18,991	18,991			
上記以外の学校用地	中学校校舎敷地	1,274	1,274	津市一身田町他	自己所有	内 借用588㎡
	高等学校校舎敷地	15,180	15,180	〃	〃	内 借用578㎡
	中学校運動場用地	14,481	14,481	〃	〃	
	高等学校運動場用地	49,169	49,169	〃	〃	内 借用3,275㎡
	その他	9,875	9,875	〃	〃	内 借用1,663㎡
	計	89,979	89,979			
合 計		108,970	108,970			
校地以外の土地		61,913	61,913	津市芸濃町河内	自己所有	山 林

短期大学の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
1号館	3155.60	33	鉄筋コンクリート造陸屋根5階建	自己所有
2号館	4163.75	38	鉄筋コンクリート造陸屋根4階建	〃
3号館	1743.64	15	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
音楽棟	858.82	23	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
図書館	803.19	8	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
体育館	1983.96	15	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺3階建	〃
部室	31.68	2	鉄骨造2階建	〃
その他	16.98			〃
計	12757.62	134		

法人本部、高等学校・中学校の部

区分	面積㎡	室数	構 造	権利の所属
本館	4721.83	36	鉄筋コンクリート造陸屋根7階建	自己所有
1号館	2722.10	25	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
2号館	2155.05	21	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
3号館	2609.31	13	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
4号館	3125.59	16	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
5号館	4113.15	29	鉄筋コンクリート造切妻屋根5階建	〃
管理棟1	207.23	5	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
管理棟2	98.88	4	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
厩舎棟	396.00	8	鉄骨造ルーフィングぶき2階建	〃
第1体育館	3819.78	16	鉄筋コンクリート造陸屋根3階建	〃
第2体育館	1889.03	12	鉄筋コンクリート造切妻屋根3階建	〃
第3体育館	2081.54	6	鉄筋コンクリート・鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき2階建	〃
クラブハウス1	422.10	29	鉄筋コンクリート造2階建	〃
クラブハウス2	162.00	11	鉄筋コンクリート造陸屋根2階建	〃
施設管理棟	122.40	4	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平屋建	〃
その他	152.38			〃
計	28798.37	235		
合 計	41555.99	369		

備考（その他／機械室6.62㎡ 倉庫東、西47.95㎡ 渡り廊下67.50㎡ テニスコート部室30.31㎡）

学生・生徒 志願者数 推移

(令和5年5月1日現在)

短期大学		R1	R2	R3	R4	R5
子ども学科		134	141	254	178	147
キャリア育成学科		121	105	107	103	121
	オフィスワークコース	77	71	81	64	65
	介護福祉コース	44	34	26	39	56
計		255	246	361	281	268
高等学校		R1	R2	R3	R4	R5
		3,254	3,064	2,787	2,885	2,894
中学校		R1	R2	R3	R4	R5
		521	544	554	569	546

学生・生徒 在籍者数推移表

短期大学

(令和5年5月1日現在)

区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	
子ども学科	在学生数	283	249	321	350	297	
	収容定数	300	300	300	300	300	
	充足率	94%	83%	107%	117%	99%	
キャリア育成学科	在学生数	183	187	188	184	183	
	収容定数	200	200	200	200	200	
	充足率	92%	94%	94%	92%	92%	
オフィスワークコース	在学生数	133	130	139	130	120	
	収容定数	120	120	120	120	120	
	充足率	111%	108%	116%	108%	100%	
介護福祉コース	在学生数	50	57	49	54	63	
	収容定数	80	80	80	80	80	
	充足率	63%	71%	61%	68%	79%	
計	在学生数	436	509	534	534	480	
	収容定数	500	500	500	500	500	
	充足率	87%	102%	107%	107%	96%	

中・高等学校

(令和5年5月1日現在)

区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5																																																																																																											
高等学校	在学生数	1,782	1,775	1,715	1,731	1,760	<table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">高等学校</td><td>在学生数</td><td>1,782</td><td>1,775</td><td>1,715</td><td>1,731</td><td>1,760</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>1,728</td><td>1,704</td><td>1,680</td><td>1,690</td><td>1,700</td></tr><tr><td>充足率</td><td>103%</td><td>104%</td><td>102%</td><td>102%</td><td>104%</td></tr><tr><td rowspan="3">中学校</td><td>在学生数</td><td>604</td><td>605</td><td>586</td><td>597</td><td>595</td><td rowspan="3"><table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">中学校</td><td>在学生数</td><td>604</td><td>605</td><td>586</td><td>597</td><td>595</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>550</td><td>560</td><td>570</td><td>570</td><td>570</td></tr><tr><td>充足率</td><td>110%</td><td>108%</td><td>103%</td><td>105%</td><td>104%</td></tr><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,328</td><td>2,355</td><td rowspan="3"><table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,386</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,355</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>2,278</td><td>2,264</td><td>2,250</td><td>2,260</td><td>2,270</td></tr><tr><td>充足率</td><td>104%</td><td>102%</td><td>103%</td><td>103%</td><td>104%</td></tr></tbody></table></td></tr><tr><td>収容定数</td><td>1,728</td><td>1,704</td><td>1,680</td><td>1,690</td><td>1,700</td></tr><tr><td>充足率</td><td>103%</td><td>104%</td><td>102%</td><td>102%</td><td>104%</td></tr></tbody></table></td></tr></tbody></table>	区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	高等学校	在学生数	1,782	1,775	1,715	1,731	1,760	収容定数	1,728	1,704	1,680	1,690	1,700	充足率	103%	104%	102%	102%	104%	中学校	在学生数	604	605	586	597	595	<table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">中学校</td><td>在学生数</td><td>604</td><td>605</td><td>586</td><td>597</td><td>595</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>550</td><td>560</td><td>570</td><td>570</td><td>570</td></tr><tr><td>充足率</td><td>110%</td><td>108%</td><td>103%</td><td>105%</td><td>104%</td></tr><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,328</td><td>2,355</td><td rowspan="3"><table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,386</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,355</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>2,278</td><td>2,264</td><td>2,250</td><td>2,260</td><td>2,270</td></tr><tr><td>充足率</td><td>104%</td><td>102%</td><td>103%</td><td>103%</td><td>104%</td></tr></tbody></table></td></tr><tr><td>収容定数</td><td>1,728</td><td>1,704</td><td>1,680</td><td>1,690</td><td>1,700</td></tr><tr><td>充足率</td><td>103%</td><td>104%</td><td>102%</td><td>102%</td><td>104%</td></tr></tbody></table>	区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	中学校	在学生数	604	605	586	597	595	収容定数	550	560	570	570	570	充足率	110%	108%	103%	105%	104%	計	在学生数	2,380	2,301	2,328	2,328	2,355	<table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,386</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,355</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>2,278</td><td>2,264</td><td>2,250</td><td>2,260</td><td>2,270</td></tr><tr><td>充足率</td><td>104%</td><td>102%</td><td>103%</td><td>103%</td><td>104%</td></tr></tbody></table>	区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	計	在学生数	2,386	2,380	2,301	2,328	2,355	収容定数	2,278	2,264	2,250	2,260	2,270	充足率	104%	102%	103%	103%	104%	収容定数	1,728	1,704	1,680	1,690	1,700	充足率	103%	104%	102%	102%	104%
	区分	項目	R1	R2	R3	R4		R5																																																																																																									
	高等学校	在学生数	1,782	1,775	1,715	1,731		1,760																																																																																																									
収容定数		1,728	1,704	1,680	1,690	1,700																																																																																																											
充足率		103%	104%	102%	102%	104%																																																																																																											
中学校	在学生数	604	605	586	597	595	<table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">中学校</td><td>在学生数</td><td>604</td><td>605</td><td>586</td><td>597</td><td>595</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>550</td><td>560</td><td>570</td><td>570</td><td>570</td></tr><tr><td>充足率</td><td>110%</td><td>108%</td><td>103%</td><td>105%</td><td>104%</td></tr><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,328</td><td>2,355</td><td rowspan="3"><table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,386</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,355</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>2,278</td><td>2,264</td><td>2,250</td><td>2,260</td><td>2,270</td></tr><tr><td>充足率</td><td>104%</td><td>102%</td><td>103%</td><td>103%</td><td>104%</td></tr></tbody></table></td></tr><tr><td>収容定数</td><td>1,728</td><td>1,704</td><td>1,680</td><td>1,690</td><td>1,700</td></tr><tr><td>充足率</td><td>103%</td><td>104%</td><td>102%</td><td>102%</td><td>104%</td></tr></tbody></table>	区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	中学校	在学生数	604	605	586	597	595	収容定数	550	560	570	570	570	充足率	110%	108%	103%	105%	104%	計	在学生数	2,380	2,301	2,328	2,328	2,355	<table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,386</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,355</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>2,278</td><td>2,264</td><td>2,250</td><td>2,260</td><td>2,270</td></tr><tr><td>充足率</td><td>104%</td><td>102%</td><td>103%</td><td>103%</td><td>104%</td></tr></tbody></table>	区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	計	在学生数	2,386	2,380	2,301	2,328	2,355	収容定数	2,278	2,264	2,250	2,260	2,270	充足率	104%	102%	103%	103%	104%	収容定数	1,728	1,704	1,680	1,690	1,700	充足率	103%	104%	102%	102%	104%																																		
	区分	項目	R1	R2	R3	R4		R5																																																																																																									
	中学校	在学生数	604	605	586	597		595																																																																																																									
収容定数		550	560	570	570	570																																																																																																											
充足率		110%	108%	103%	105%	104%																																																																																																											
計	在学生数	2,380	2,301	2,328	2,328	2,355	<table><thead><tr><th>区分</th><th>項目</th><th>R1</th><th>R2</th><th>R3</th><th>R4</th><th>R5</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">計</td><td>在学生数</td><td>2,386</td><td>2,380</td><td>2,301</td><td>2,328</td><td>2,355</td></tr><tr><td>収容定数</td><td>2,278</td><td>2,264</td><td>2,250</td><td>2,260</td><td>2,270</td></tr><tr><td>充足率</td><td>104%</td><td>102%</td><td>103%</td><td>103%</td><td>104%</td></tr></tbody></table>	区分	項目	R1	R2	R3	R4	R5	計	在学生数	2,386	2,380	2,301	2,328	2,355	収容定数	2,278	2,264	2,250	2,260	2,270	充足率	104%	102%	103%	103%	104%																																																																																
	区分	項目	R1	R2	R3	R4		R5																																																																																																									
	計	在学生数	2,386	2,380	2,301	2,328		2,355																																																																																																									
収容定数		2,278	2,264	2,250	2,260	2,270																																																																																																											
充足率		104%	102%	103%	103%	104%																																																																																																											
収容定数	1,728	1,704	1,680	1,690	1,700																																																																																																												
充足率	103%	104%	102%	102%	104%																																																																																																												

学生・生徒 進路状況

短期大学

卒業者・進学者・就職者数

(令和6年5月1日現在)

	子ども学科	キャリア育成学科		合計	摘要
		オフィスワーク	介護福祉		
卒業者	151	58	27	236	
就職希望者	147	56	26	229	
就職決定者	146	52	26	224	
未内定者	1	4	0	5	
進学者	1	0	1	2	同朋大学 鈴鹿短期大学
その他	3	2	0	5	家事従事 アルバイト等

過去３ヶ年の公務員試験合格者

●子ども学科

市町名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
津市	保育士	0	3	7	0	0	3	0	3	10
	幼稚園教諭	1	1	0	2	3	0	3	4	0
四日市市	保育士	0	3	1	1	0	1	1	3	2
伊勢市	保育士	0	2	3	0	0	0	0	2	3
松阪市	保育士・幼稚園教諭	7	6	2	1	0	0	8	6	2
鈴鹿市	保育士・幼稚園教諭	2	3	2	2	0	0	4	3	2
亀山市	保育士・幼稚園教諭	1	1	1	1	0	1	2	1	2
鳥羽市	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
志摩市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	1	0	0	1	0
熊野市	保育士	0	2	1	0	0	0	0	2	1
伊賀市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	1	0	0	1
名張市	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	0	0	0	0	0	0
川越町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
東員町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
菰野町	保育士	0	0	1	0	0	0	0	0	1
多気町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
玉城町	保育士	1	0	1	0	0	0	1	0	1
度会町	保育士	1	2	1	0	0	0	1	2	1
大紀町	保育士	0	1	2	0	1	0	0	2	2
御浜町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
紀宝町	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
	事務職（一般）	0	0	1	0	0	0	0	0	1
三重県	保育士	0	1	0	0	0	0	0	1	0
その他県外	保育士・幼稚園教諭	0	0	0	1	0	1	1	0	1
計		13	30	24	8	5	7	21	35	31

●キャリア育成学科 オフィスワークコース

採用試験名	職種	現役学生			卒業生			計		
		R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
県・市町	行政	0	0	1	0	0	1	0	0	2
県	警察事務	0	0	1	0	0	1	0	0	2
県	警察官	0	1	2	0	0	0	0	1	2

主な就職先・配属先

(令和6年5月1日現在)

子ども学科		高田幼稚園、第2すずかきしおか幼稚園、富田文化幼稚園、みずきがおか道伯幼稚園、豊野保育園、ながさわ保育園、長太の浦保育園、松阪清泉愛育園、わかすぎ第二保育園、亀山愛児園、高岡ほうりん認定こども園、ゆい保育園、ゆたか認定こども園、津市社会福祉事業団乳児院ましろ、みどり自由学園、市町立幼稚園・保育園・認定こども園 他
キャリア育成学科	オフィスワーク	J A 鈴鹿、三十三銀行、百五銀行、ヘルシーファミリー、パイロットインキ、松阪興産、百五オフィスサービス、サイネックス、ミエデン、日本陸送、日産部品東海販売、三重いすゞ自動車、三重ダイハツ販売、三重トヨタ自動車、ミツイバウマテリアル、トヨタレンタリース三重、三重交通コミュニティ、遠山病院、亀山市、三重県警察 他
	介護福祉	あけあい会、永甲会、慈童会、高田福祉事業協会、風薫会、思源会、佐藤病院、緑の風 他

高等学校

卒業者

(令和6年5月1日現在)

		男	女	計
三年制	I 類	8 0	1 0 5	1 8 5
	II 類	8 1	8 9	1 7 0
六年制		9 5	1 0 4	1 9 9
計		2 5 6	2 9 8	5 5 4

進学合格者のべ数・就職者数

		三年制				小計	六年制		小計	合計
		Ⅰ類		Ⅱ類			現	卒		
		現	卒	現	卒					
四年制大学	国立	1	0	13	3	17	79	15	94	111
	公立	0	0	12	1	13	28	4	32	45
	私立	111	1	423	42	577	397	121	518	1095
文部科学省所管外		0	0	0	0	0	4	0	4	4
海外		0	0	0	0	0	2	0	2	2
短大	公立	8	0	6	0	14	0	0	0	14
	私立	36	0	8	0	44	0	0	0	44
国公立各種・専門学校		4	0	4	0	8	0	0	0	8
私立各種・専門学校		37	0	6	0	43	0	0	0	43
就職		4	0	0	0	4	0	0	0	4
合計		201	1	472	46	720	510	140	650	1370

主な進学先

(令和6年4月現在)

国公立大学 156名		(医学科 26)	
北海道大学 4 (医学科 1)	筑波大学 4 (医学科 2)	富山大学 1 (医学科 1)	山梨大学 1 (医学科 1)
名古屋大学 5 (医学科 1)	三重大学 46 (医学科 17)	札幌医科大学 1 (医学科 1)	名古屋市立大学 12 (医学科 1)
東京大学 5	京都大学 4	大阪大学 7	東北大学 1
国際教養大学 3	静岡大学 6	名古屋工業大学 3	岐阜大学 5
岐阜薬科大学 3	滋賀大学 4	大阪公立大学 7	神戸大学 6
兵庫県立大学 2	岡山大学 1	広島大学 1	鳥取大学 2
私立大学 1095名		(医学科 48)	
酪農学園大学 2	東北医科薬科大学 1	自治医科大学 5	青山学院大学 6
北里大学 3	慶応義塾大学 8	工学院大学 3	芝浦工業大学 3
順天堂大学 5	上智大学 1	中央大学 20	帝京大学 3
東海大学 7	東京都市大学 4	東京農業大学 3	東京理科大学 20
日本大学 5	法政大学 7	明治大学 15	早稲田大学 14
金沢工業大学 7	愛知大学 28	愛知医科大学 14	愛知学院大学 44
愛知工業大学 9	金城学院大学 9	大同大学 25	中京大学 53
中部大学 31	名古屋外国語大学 13	名古屋学院大学 24	南山大学 18
藤田医科大学 15	名城大学 47	皇學館大学 47	鈴鹿医療科学大学 59
京都産業大学 21	京都薬科大学 11	同志社大学 41	同志社女子大学 5
佛教大学 3	龍谷大学 23	立命館大学 68	大阪産業大学 31
大阪体育大学 4	関西大学 15	近畿大学 73	摂南大学 8
関西学院大学 22	神戸学院大学 17	兵庫医科大学 5	帝塚山大学 6
短期大学 58名			
高田短期大学 40	三重短期大学 14	名古屋文化短期大学 2	愛知学泉短期大学 1
専修学校 51名			
三重中央看護学校 4	三重県立公衆衛生学院 3	津看護専門学校 3	三重看護専門学校 4

事業実績の概要

理事会・評議員会・監事会・内部監査委員会の開催状況

令和5年度は高田学苑寄附行為に基づき、計4回の理事会、3回の評議員会を開催しました。また、高田学苑では私立学校に義務付けられている監査法人及び監事の監査に加え、内部監査委員による監査を行い、学校法人におけるガバナンスが適切に機能しているか、外部及び内部から監督・指導を受けています。令和5年度に行われた各会の開催日と議題は以下になります。

理 事 会	第1回	令和5年 5月30日（火）	・令和4年度決算（案）の承認について
	第2回	令和5年 5月30日（火）	・令和4年度決算（案）の承認について
	第3回	令和5年11月 7日（火）	・令和5年度第1回収支補正予算（案）について ・高田短期大学学則の一部改正（案）について ・高田高等学校学則の一部改正（案）について ・高田中学校学則の一部改正（案）について
	第4回	令和6年 3月26日（火）	・令和5年度第2回収支補正予算（案）について ・令和6年度収支当初予算（案）について ・学校法人高田学苑組織規程の一部改正（案）について ・学校法人高田学苑公印取扱規程の一部改正（案）について ・学校法人高田学苑外国語指導助手（ALT）の任用等に関する規程の一部改正（案）について ・特殊勤務職員給与規程の一部改正（案）について ・育児休業・介護休業等に関する規程の一部改正（案）について ・高田短期大学学則の一部改正（案）について
評 議 員 会	定 時	令和5年 5月30日（火）	・令和4年度決算（案）の承認について
	臨 時	令和5年11月 7日（火）	・令和5年度第1回収支補正予算（案）について
	定 時	令和6年 3月26日（火）	・令和5年度第2回収支補正予算（案）について ・令和6年度収支当初予算（案）について
監 事 会	決算期	令和5年 5月24日（水）	・令和4年度短期大学及び中高等学校教学監査 ・令和4年度事業実績報告 ・令和4年度決算審査関係 ・質疑応答
	上半期	令和5年10月27日（金）	・令和5年度短期大学及び中高等学校概要報告 ・令和5年度第1回補正予算書及び現預金状況 ・令和5年度事業実績報告（中間） ・質疑応答及び実査
内 部 監 査 委 員 会	第1回	令和5年 5月23日（火）	・令和4年度短期大学及び中高等学校教学監査 ・令和4年度事業実績報告 ・令和4年度決算概要報告 ・質疑応答
	第2回	令和5年10月25日（水）	・令和5年度短期大学及び中高等学校概要報告 ・令和5年度事業実績報告（中間） ・現金、預金及び有価証券の状況 ・学苑管理運営等について

監査法人監査報告

監査法人監査		監査法人名：五十鈴監査法人	
4月 6日（木）	現金、通帳、証書等の実査	9月11日（月）	令和5年 8月までの取引記録
5月18日（木）	令和4年度決算監査①	12月 4日（月）	令和5年11月までの取引記録
5月19日（金）	令和4年度決算監査②	1月24日（水）	令和5年12月までの短大取引記録
6月 2日（金）	令和4年度決算監査③	3月25日（月）	令和6年 2月までの取引記録

危機管理への取り組み

非常食等の備蓄

東海地域は、今後の発生確率が高いとされる南海トラフ地震の影響が懸念されています。また、台風や豪雨による風水災害が全国各地で年々増加傾向であり、日頃からの備えに対して学苑全体で取組みを進めていく必要があると考えています。本年度は新入の学生・生徒分の非常食等備蓄品「白い小箱」を購入しました。

この「白い小箱運動」は単なる非常食等の備蓄ではなく、小箱の詰め込み・搬入作業を行う障がい者の方々の就労支援や、非常食推進機構と締結した「災害用物資を活用した防災活動に関する協定」に基づき、学生・生徒が卒業時に自身で購入した白い小箱を寄付することで地域や食料物資を必要とする海外へ援助を行う「白い小箱運動」に参加する等の社会貢献活動として意義のあるものとなっています。

令和5年度は、日本非常食推進機構を通じて社会福祉法人三重県厚生事業団へ268箱、津市健康福祉部へ106箱、松阪市こども未来課へ350箱、三重県子ども・福祉部へ210箱、鈴鹿市へ70箱の合計1,004箱の寄付を行い、各団体・行政より障害者・児童養護施設や生活困窮者へ届けられます。



夏期教職員研修会

講演 「性の多様性を考える ～ 私たちにできること ～」 三重県男女共同参画センター 職員 武藤 祐太 氏

8月18日（金）高田中・高等学校講堂において、教職員約200人を対象に開催しました。

性的マイノリティーへの理解を深めるためのLGBT法案が令和5年6月に可決され、学校においても学生・生徒への教育や対応がますます求められる事となります。それを踏まえ、今回の講演は三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」より武藤祐太氏を講師にお招きし、「LGBT」についてお話いただきました。改めてLGBTということを理解したうえで、学校として何ができるのかについて、当事者や家族の悩み、当事者が傷ついた言葉や嬉しかった言葉などの具体例を挙げての説明をもとに、「相手を思いやる気持ち」をもった言動の大切さを教えていただきました。また、武藤氏の発言の中で、男らしさ・女らしさではなく、その人らしさを理解することで、お互いを認め合うことのできる学校や社会を目指しましょうとの呼びかけは現場対応を求められる教員に響いた様子で、講演終了後も武藤氏のもとへ複数の教員が相談や質問に列を作っていました。





教職員の健康管理体制

健康診断・任意検診

本学は平成23年度より夏期休暇期間を利用し、学校保健安全法、結核予防法、労働安全衛生法などで定められた検査項目を遵守した健康診断を実施しています。令和5年度は8月22日（火）、23日（水）、24日（木）、25日（金）の4日間での検診を実施し、教職員223名が受診しました。教職員が円滑に受診できるよう、受付時間の分散や検査経路の調整をするなど毎年工夫に努めており、令和5年度は検診開始時刻を早めて対応するなどしました。

任意検診については、令和元年度から継続している巡回型人間ドックや腹部・乳エコー・胃・大腸・前立腺・卵巣・膵臓・消化器系のリスク検査といった希望多数の項目は継続し、令和5年度は新たに癌リスクを主とした複数の疾病検査が可能なアミノインデックス検査を取り入れました。

検査結果は個人へ直接通知され、教職員の健康管理に役立てられると共に、この結果をもとに産業医である岩崎病院が教職員の健康を確保する必要があると認めた場合は、本学に対し教職員の健康管理等について必要な勧告がなされます。



ストレスチェック

労働安全衛生法の改正により平成27年12月以降、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ目的から事業所に義務付けがなされました。教職員はストレス判定を行う調査票の質問項目に回答することで自身のストレス度合いがわかります。ストレスチェックを行うことで高ストレス者を抽出し、メンタルヘルス不調を未然に防止する一時予防を講じることでメンタル不良者の発生を防ぎ、より働きやすく健康的な職場へと改善することを目指します。今年度は6月1日（木）より一ヶ月間、ストレスチェックをウェブ上で実施しました。事業所としては検査結果を通知された教職員の希望に応じて医師による面接指導の実施を行う必要があり、またその結果、医師の意見を聞いた上で、必要な場合には、作業の転換や労働時間の短縮といった適切な措置を講じる責任があります。昨今のコロナ禍への対応や教職員へ求められるものが多様化するなかで教職員を守る一助となるようストレスへの気づきを促すとともに職場環境の分析と改善に繋げていきます。

インフルエンザ予防接種

平成28年度から毎年実施しております学苑内での予防接種ですが、今年度も三重県健康管理事業センターに来校いただき、11月14日（火）、11月17日（金）の2日間にて実施しました。希望者123名に接種を実施し、予防接種の費用についてはこれまで同様に学苑が一部を負担しています。

教職員の表彰

特別表彰	
中・高等学校	10月 4日（水） 計 2名
優良教職員	教諭 1名 三重県私学総連合会 優良教職員受賞による
	教諭 1名 文部科学省 優良教職員受賞による

永年勤続表彰			
短期大学	11月 6日（月）	計 7名	
25年 勤続	1名	15年 勤続	2名
10年 勤続	4名		
中・高等学校	10月 4日（水）	計 20名	
35年 勤続	4名	30年 勤続	2名
25年 勤続	1名	20年 勤続	2名
15年 勤続	8名	10年 勤続	3名

教職員の異動状況

		採用			退職	
		新規採用	再雇用	任用替	再雇用	完全退職
短期大学	教授					2
	准教授		1			1
	講師					
	助教	3				
	本務職員	1	1	1		
	特任教授					
	特任准教授					
	特任講師			1		2
	嘱託職員	2	1			2
	非常勤職員					
中・高等学校	教諭		3	2	4	4
	本務職員					
	講師				1	
	講師嘱託	4				
	ALT					
	嘱託職員	3				
	非常勤講師	2	1			5

給付型奨学金・授業料等減免（助成）

高田学苑では、保護者や学生の経済的な負担を軽減する目的から、各種奨学金・授業料等減免制度を設けています。なお、これらの奨学金は給付型であり、すべて返済不要です。

高田短期大学介護福祉士就労予定者奨学金	
対 象	キャリア育成学科介護福祉コース学生
目 的	建学の精神に照らし、特に学業・人物に優れた学生で卒業後介護施設に就職する予定であるすべての学生（外国人留学生を除く）を支援する。
決定者	31名（1年生22名、2年生9名）
奨学金額	3,100,000円（1・2年生ともに年額10万円を給付）
高田短期大学奨学金私費外国人留学生授業料等減免措置	
対 象	高田短期大学に在学する私費外国人留学生
目 的	授業料・施設設備整備費・教育充実費等の経済的負担を減免する。
決定者	22名（減免率については学業成績（GPA）、出席率、日本語能力試験（JLPT）に基づき決定）
奨学金額	4,960,000円

短期大学入学金免除制度

高田高等学校を卒業し高田短期大学に入学する場合、入学金（28万円）が免除される制度もあります。過去3カ年の高田高等学校からの進学者数は以下のとおりです。

	令和3年度入学	令和4年度入学	令和5年度入学
人 数	40名	28名	36名

教育活動の実績及び進捗状況 —高田短期大学—

時代・社会の変化に即応した取り組み

1 学士力向上を目指した教育課程の展開

学生の主体的・自律的な自己評価充実に向けて

「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」で示した「共通到達目標（全学的学修成果）」に到達できるよう、「履修マップ」、「ルーブリック評価」等のツールを積極的に活用し、学生自らが成果を点検し自己評価するサイクルを整えることができました。

オンライン授業環境の整備（新システムの導入・運用開始）

新型コロナウイルス感染症の流行期を経て、緊急時・通常時に関わらずオンライン授業を展開する仕組みが整いました。加えて教務関連システムの刷新（Active Academy Advance 導入）により、各教員からの資料提示、授業内の質疑応答、学生向けの出席状況・成績等の現況確認ツールなど、厚みのある授業環境を整備し、能動的な学修力の向上を目指し、学外でも学修を継続できる環境を整えることができました。

2 主体性・協調性を育む短大生活支援

（1）新入生研修

日 時 4月24日（月）

会 場 （子ども学科） 本学

（キャリア育成学科） COCOPA RESORT CLUB

白山ヴィレッジゴルフコース（津市白山町川口6262）

研修内容 新入生研修をとおり、短大生としての自覚・自立心および協調性を養うとともに、学生・教職員相互の理解と親睦を深めることにより、今後の短大生活をより有意義に送れるようにすることを目的としています。今年度も新型コロナウイルス感染防止のため宿泊は行わず、会場も密を避けるため学科ごとに別会場での実施となりました。

（2）学生自治会主催イベント

本学伝統の自治会活動では、2年生の執行部役員に加え、1年生から学生自治会サポートメンバーを募り、各学生が自らの役割を考えて行動し、課題を解決していく「異学年共同コミュニティ」の形成を目指しています。自治会活動を教職員が支え、年間を通して種々の行事を企画しています。

① TJC祭（スポーツ大会）

日 時 5月13日（土）

場 所 本学体育館

内 容 新入生歓迎および学生の親睦を深めることを目的に開催しました。スポーツを行なうには最適な時期で約120名の学生が集まり、自治会役員や教職員とともに競技に参加しました。



② 学生自治会主催 抽選会

日 時 7月21日(金)

場 所 2号館1階カフェテリア

内 容 学内コンビニおよび笑旨XXと連携し、学内で買い物をした学生を対象に学生自治会が抽選会を行いました。

③ 第57回高短祭

日 時 10月14日(土)・15日(日)

場 所 本学

内 容 初日は午前中に準備を行い、午後からの開催で2日間の開催としました。久しぶりに外部公開を行い一般来場者でにぎわいました。また学生の模擬店に加えてケータリング業者のキッチンカーを3台導入しました。



(3) 学長と学生自治会執行役員との懇談会

日 時 7月17日(月) 14:50～

場 所 第4会議室

出席者 清水谷学長、執行委員10名、教職員8名

内 容 学生との意見交換や、学生からの要望等の聴き取りを行い、改善策について検討しました。

1) 高短祭について

2) 学業及び学生生活全般に関する意見交換

(4) 白い小箱贈呈式

日 時 12月20日(水) 11:00～

場 所 本学

出席者 三重県厚生事業団

自治会執行委員2名、教職員4名

内 容 卒業生が本学に残してくれた白い小箱(災害用備蓄品)を厚生事業団へ寄付しました。この寄付した白い小箱は、厚生事業団を通じ福祉施設等へ届けられ、避難訓練や万が一の場合の備蓄品として使用されます。

3 キャリア教育・キャリア支援の充実

キャリア教育の推進

各学科・コースの特色に応じて、教養科目・専門科目の各授業と就職ガイダンス、プレ就職講座、就職講座を関連づけ、キャリア教育を推進しています。

2023年度 入学生 (1年生)	子ども学科	就職ガイダンス	3回実施
		【授業】キャリアスタディ	8回実施
		キャリアスタディフォローアップ講座「ようこそ先輩」	
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	プレ就職講座	2回実施
		【授業】キャリアガイダンスII	13回実施
	介護福祉コース	プレ就職講座	1回実施
		就職講座	3回実施

2022年度 入学生 (2年生)	子ども学科	就職講座	3回実施
	キャリア育成学科		
	オフィスワークコース	就職講座	4回実施
	介護福祉コース	就職講座	4回実施

公務員試験対策

(1) 教養試験対策講座〔受講者数〕()内は内数で事務職希望者

	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1年生	80(3)人	130(20)人	145(7)人	85(9)人	72(3)人
2年生	53(2)人	32(2)人	52(1)人	77(2)人	56(6)人

2023年度入学生(1年生)は、9月6日(水)から令和6年3月8日(金)まで21回実施

2022年度入学生(2年生)は、4月10日(月)から7月10日(月)まで12回実施

(2) 保育専門対策講座 1年生 12月6日(水)～令和6年2月28日(水)：計8回
新2年生分として 令和6年3月18日(月)・21日(木)：計4回

(3) 数学対策講座

1年生(9月～ 24回実施)

2年生(4月～ 12回実施)

(4) 公務員市町別(四日市市、松阪市、鈴鹿市、津市)二次・三次対策講座等 5回実施 1年生向けガイダンス、性格検査、実技対策キックオフイベント実施 他随時個別指導



学生への就職支援

キャリア支援センターには、キャリアカウンセラー1名、キャリアサポーター4名が配置され、センター長とセンター長補佐(庶務担当)を合わせて7名の職員が、きめ細かに学生の進路相談や就職活動対策の支援を行っています。



卒業生への支援と早期離職の防止対策

生涯キャリア支援を旗印に、離職したり、仕事上の悩みなどで相談に来たりする卒業生に対して、卒業後も継続して支援を行っています。早期離職防止対策については、令和6年2月20日(火)、各学科コース別の就職直前講座で指導しました。

「AAA(相談記録)」の活用等による協働型キャリア支援の推進

毎月1回(年13回)、キャリア支援委員会を開催して、各学科コースとキャリア支援センターの教職員が、一人ひとりの学生に対するキャリア支援のあり方について協議しています。また、日常的には学内Webシステム「AAA」の相談記録を活用して、教職員間の情報共有と意思疎通を図っています。

4 学生募集と高大交流事業

(1) 高大教育交流事業

今年度の交流事業の実施回数は下記のとおりです。

- ① 出張ガイダンス（協定校へ出向いて学校ガイダンスを行う） 61回（17校）
- ② 出前（模擬）授業（協定校へ出向いて出前授業を行う） 17回（10校・20講座）
- ③ 特別授業・授業見学・施設見学など 5回（4校・9講座）
（本学の授業に出席、本学の施設・設備見学）



(2) 高大教育交流連絡協議会

令和6年2月26日（月）に、令和5年度高大教育交流連絡協議会を開催し、三重県内の「高大教育交流協定校」等16校と本学教職員が参加しました。本学から入試結果や進路状況などを報告したほか、中川准教授による講演を行いました。また、各高校の教員と本学教職員とでグループワークを実施し、情報共有や意見交換を行うなど、交流を深めました。

(3) オープンキャンパス実施結果

① 日時

- 第1回 6月10日（土）13:00～16:00
- 第2回 7月9日（日）13:00～16:00
- 第3回 8月5日（土）13:00～16:00
- 第4回 8月20日（日）13:00～16:00
- 第5回 12月17日（日）13:00～15:00
- 第6回 令和6年3月10日（日）13:00～16:00

※留学生オープンキャンパス

- 7月17日（月・祝）14:00～16:00 参加者22名
- 8月8日（火）14:00～16:00 参加者24名
- 10月9日（月・祝）14:00～16:00 参加者3名

② 参加者数

	6/10	7/9	8/5	8/20	12/17	R6. 3/10	合計
子ども学科	70	65	121	134	30	56	476
キャリア育成学科 オフィスワークコース	35	37	64	50	4	20	210
キャリア育成学科 介護福祉コース	7	19 (留学生2名)	22	27	3	7	85
合 計	112	121	207	211	37	83	771

③ 実施スケジュール

13:00～13:30 全体説明会

13:30～終了まで 学科・コース説明会、体験授業、各種相談



5 外国人留学生支援について

留学生のビザ更新に関する情報、奨学金など金銭面支援の状況、納税及び社会保険料などの支払いに関する情報、日本語能力検定試験など学習状況について、外国人留学生支援室内での情報の共有を図っています。

(1) 外国人留学生支援室による在留期間更新の取次申請手続き

9月末までに1年生5名（1名は入学前に申請済み）、2年生2名の対応を行い、在留資格更新不許可者を出さずに無事に手続きが行えました。

(2) 施設奨学金の斡旋

1年生6名に対し各介護福祉施設奨学金の説明および施設担当者との面接の段取りを行い、全員奨学金の受給が決定しました。

(3) 授業内での日本語支援

介護福祉コースの授業に2人の日本語補助員を配置し、介護や医療の専門用語等の説明が留学生に非常に好評です。更に、日本語能力等向上のための日本語補習講座を実施しています。

(日本語補助対象授業科目)

前期

1年生…「心と身体のしくみⅠ」「人間発達の理解Ⅰ」

2年生…「社会保障」

後期

1年生…「人間発達の理解Ⅱ」

2年生…「地域福祉」



(4) 食料品の無料配布

昨年度に引き続き新型コロナウイルスでアルバイトが減っている留学生に対して、青果店の少し古くなった野菜や果物、お米等の無料配布を行い好評でした。

地域への社会貢献事業

地域連携施設

みえアカデミックセミナー2023

三重県内にある全ての大学・短期大学・高等専門学校が有する学びと県民をつなぐ三重県の高等教育機関の連携事業で、各校の特色を活かしたバラエティ豊かな公開セミナーが毎年開催されています。

本学は次の講座を開講し、42名の受講がありました。

日 時 8月2日(水)
会 場 三重県総合文化会館 1階 レセプションルーム
テ ー マ 「変化の時代に求められるキャリアデザインとは」
講 師 キャリア育成学科講師 日下 清佳



高田短期大学公開講座

【講座1】「戦後三重の経済産業小史ー第2次世界大戦後から現在までー」

開 催 日 11月25日(土)
場 所 大講義室
参 加 者 21名
受 講 料 無料
講 師 キャリア育成学科教授 中畑 裕之
内 容 戦後三重の経済、産業の変歩みを振り返るとともに、



不透明で不確実な現代における、三重県の経済構造・企業誘致・グローバル化についての指摘がありました。受講者の皆様も、熱心にメモをお取りになるなど、身近な問題として興味を持っていただいたようでした。

【講座2】「最古の動物化石を求めて世界をめぐる」

開 催 日 9月30日(土)
場 所 大講義室
参 加 者 26名
受 講 料 無料
講 師 子ども学科特任教授 大野 照文
内 容 動物の出現したころの様子について調べるために、化石を求めて出かけた辺境の地の、人や風景の紹介から始まり、化石を通して具体的に何がわかるかを解説しました。受講者の皆様にも実際の化石を手にする時間を設定し、はるか古代に思いを馳せていただきました。



【講座3】「人の知恵の進化」

開 催 日 10月28日(土)
場 所 大講義室
参 加 者 18名
受 講 料 無料
講 師 子ども学科特任教授 大野 照文
内 容 はるか昔、生き残りをかけて人類の知恵がどのように育まれてきたかについて解説がありました。また、知恵の未熟さや不完全さ、人間らしさを排除した科学の進歩につ



いてもふれ、現代社会でどのように生きていくかについて、受講者の方にも考えていただきました。

【講座4】「学びの楽しさを広める」

開催日 12月16日(土)

場 所 大講義室

参加者 21名

受講料 無料

講師 子ども学科特任教授 大野 照文

内 容 博物館で行っている活動を体験していただくため、ワークショップの形を取り、ハマグリ貝柱の位置や開閉の仕組みについて考えていただきました。普段見慣れているハマグリ貝柱の意外な一面に触れ、受講者の皆様も「知る楽しさ」を大いに実感されたようでした。



高田短期大学付属図書館 公開講座

「図書館司書と楽しむ文学とおしゃべりの講座」(全3講座)

【講座1】「石牟礼道子とMINAMATA」

開催日 9月6日(水)

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 21名

受講料 無料

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内 容 生まれ育った地で発生した深刻な問題に終生向き合った作家、石牟礼道子と、身を挺して実態を世界に発信したW. ユージン・スミス、アイリーン・M. スミスを紹介しました。皆様に『苦海浄土』と写真集および映画『MINAMATA』の奥深さについて考えていただく機会となりました。



【講座2】「平家物語 ― かくも愛しき武士(もののふ)たち」

開催日 11月29日(水)

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 16名

受講料 無料

講師 図書館司書 瀬古 幸弘

内 容 合戦の活写だけでなく、当時の武士が置かれた立場、また、独特のキャラクターを持つ数人の武士たちの言動について、各々の事情や人生も踏まえて解説しました。皆様には琵琶の音色も鑑賞いただき、多角的重層的に作品の世界に浸っていただきました。



【講座3】「遠藤周作 ― フランスへの旅」

開催日 2月28日(水)

場 所 図書館1階 グループワークエリア

参加者 20名

受講料 無料

講師 図書館司書 瀬古 幸弘



内 容 信仰の人として知られる作家の、戦後間もない旅程をたどりました。近年発見されたり発表されたりした日記等の資料も紹介しつつ、旅がもたらしたものについて考えました。

皆様には、紙上旅行の楽しさとともに、作家のほろ苦い思いにも心を寄せていただきました。

仏教教育研究センター

研究会の開催

研究テーマ：「真慧上人著『顕正流義鈔』の研究」

高田派中興の祖である真慧上人のご遠忌を記念して、上人が著された『顕正流義鈔』の研究書を発刊することを目的に毎月1回研究会を開催してきました。これまでに原文と現代語訳との対照を行い、語句説明を頭註、補註形態で行ってきましたが、昨年12月に『影印 翻刻 現代語訳 顕正流義鈔』を発行することができました。本年1月よりは、新たな研究テーマを検討中です。

仏教教育研究センター公開講座（高田本山教学部 共催）

地域の方々に仏教に触れる機会の提供を目的に、高田本山教学部との共催にて、真宗高田派本山の高田会館ホールにて開講しました。なお、いずれも受講料は無料です。

第1回	日 時	6月7日（水）13：30～15：30	受講者	49名
	題 目	聖徳太子の造形について 一彫像を中心に一		
	講 師	瀧川 和也 氏（三重県総合博物館学芸員）		
第2回	日 時	10月19日（木）13：30～15：30	定 員	25名
	題 目	「肉食をめぐる文化史」		
	講 師	北島 恒陽 研究員（真宗高田派正泉寺住職）		

仏教基礎講座（高田本山寄附講座）

高田本山からの寄附を基に実施する講座で、仏教や真宗に関する基礎的な内容に加え、真宗高田派の歴史や法宝物に関する知識を以下の日程で学んでいただきました。

日 時	8月21日（月）～8月25日（金） 9：00～17：50			
対 象	寺族及び一般者			
受講料	無料（但し、テキスト代は実費負担）			
教 科 講 師	「仏教学」	栗原 廣海	研究員（高田短期大学名誉教授）	
	「仏教史」	金信 昌樹	研究員（善昌寺住職）	
	「真宗学」	松山 智道	研究センター長（高田短期大学特任講師）	
	「真宗史」	清水谷正尊	研究員（高田短期大学学長）	
	「高田の歴史と法宝物」	梅林 久高	研究員（高田学苑学苑長）	

仏教専門講座（高田本山寄附講座）

仏教基礎講座と同じく高田本山からの寄附を基に実施するもので、仏教や真宗に関するより専門的な知識を学んでいただくために、以下の日程で年間10回の講座（試験日として11回目あり）を予定していましたが、5月は奉賛法会の期間中のため中止になりました。

なお、この専門講座における講座科目は隔年で内容が変わり、全10科目（隔年で5科目）を開講します。この講座は、文部科学省の履修証明制度に則った「履修証明プログラム」として開講し、全10科目の講座を修了された方には学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。

日 程	4月28日(金) 6月30日(金) 7月28日(金) 9月29日(金)
	10月27日(金) 11月24日(金) 12月15日(金)
	令和6年1月26日(金) 令和6年2月16日(金) 令和6年3月8日(金)
	9時00分～17時50分(50分の昼休憩あり)
対 象	寺族および一般(真宗高田派の教学を学びたい方)
受講料	無料(但し、テキスト代は実費負担)
教 科 講 師	「仏教学講読Ⅱ」 藤田 正知 研究員 (高田中・高等学校教諭)
	「真宗学概説」 松山 智道 研究員 (高田短期大学特任講師)
	「真宗学講読Ⅱ」 中川 結幾 研究員 (高田中高等学校非常勤講師)
	「真宗史概説」 北島 恒陽 研究員 (真宗高田派正泉寺住職)
	「高田の宗風」 栗原 直子 研究員 (龍谷大学非常勤講師)

運営委員会開催の状況

第1回 7月31日(月)、第2回 11月17日(金)、第3回 12月25日(月)、
 第4回 令和6年2月14日(水)、第5回 令和6年3月15日(金)
 (内容) 専門講座について、基礎講座について、令和6年度センター年間行事予定について、
 令和6年度公開講座講師について、センター研究会「研究書」の発行について、
 令和6年度の講座について

仏教行事委員会

学内仏教行事の実施

	新入生本山参詣	奉讃法会(例年は宗祖降誕会)	灌仏会
開催日	4月3日(月)	5月22日(月)	6月19日(月)
講 師	清水谷正尊(本学学長)	清水谷正尊(本学学長)	佐々木秀英(本学職員)
参加者	228名	221名 (1年の出席票提出者数)	213名 (1年のレポート提出者数)

	追弔会	報恩講
開催日	10月23日(月)	12月18日(月)
講 師	松山 智道(本学特任講師)	梅林 久高(高田学苑学苑長)
参加者	213名 (1年のレポート提出者数)	207名 (1年のレポート提出者数)

育児文化研究センター

Ⅰ. 地域子育て支援事業

1. 地域開放事業「おやこひろば たかたん」

子育て家庭の支援と子育て支援に関する研究フィールドの「おやこひろば たかたん」は、津市を中心に子育て親子の皆さんにご利用いただいています。スタッフの見守りの中、親子や子ども同士、親同士がゆったりした雰囲気であい遊び、交流を深める場として開催しています。

今年度は第1木曜日を0～1歳児と妊婦さんを対象の日とし、途切れのない子育て支援を意識した取り組みをしました。また、8月など夏休み期間は就園児も参加できるように門戸を広げました。子育て家庭が求めている子育て支援を探りながら参加対象者や内容を考えています。

(1) 「おやこひろば たかたん」活動状況と利用者数

開催日時 毎週木曜日 第1・第3木曜日 10:00～12:00

場 所 育児文化室・「たかたんフォレスト」

参加対象 未就園児とその保護者・妊婦

令和5年度 69回ひろばを開設し、子どもと保護者を合わせて延べ1,338名の利用。

(2) 子育て講座 ひろば開催日(月1回)にセンター研究員を講師に子育て講座を開催しました。

講座日	テーマ	講 師	参加者数
5/15	タオルで遊ぼう!	金森 まさ子	7組
6/19	やまあり たにあり～親子でいい汗かきましよう～	榊原 尉津子	5組
7/10	子どもの発達と遊び	中嶋 麻衣	9組
8/21	知って安心!「つまるとあぶないたべもののはなし」	長倉 里加	2組
9/21	保護者に知ってほしい保育者の姿 ～保育者は子どもの何を育てているのか～	寶來 敬章	9組
10/19	楽しい表現遊びと手品	稲田 直子	8組
11/20	子どもとたのしむ	河内 純子	12組
12/18	クリスマス ミニコンサート	山本 敦子	14組
R6. 1/15	絵本で遊ぼう!	岩附 啓子	14組
R6. 2/17	1歳からのハッピーな子育て!	江崎グリコ株式会社	11組

(3) ひろば関係研修会

○第1回 「乳幼児の救急蘇生について」

日 時 8月18日(金) 13:30～

○第2回 「令和5年度おやこひろばの活動報告と今後の展望について」

日 時 令和6年1月18日(木) 14:00～

(4) 「おやこひろば たかたん」HP

「ひろば開催日」「活動案内」「活動紹介」等、現在の活動や今後のご案内をしています。

また、今年度よりInstagramを開設し、その日のひろばの様子やイベント情報などをアップし、タイムリーに情報が伝わるようにしています。

2. 子育て相談

地域への子育て支援の事業として、育児に関する心配や不安を相談できる個別対応の子育て相談を予約制で行っています。4月～令和6年3月までに10件の相談利用がありました。

II. 研究会

センター研究員の活動の場として定例研究会とグループ研究会を開催しています。

1. 定例研究会(年3回)

○第1回 第64回定例研究会 7月4日(火) 16:30～ (第4会議室) 参加者17名

研究報告 中嶋 麻衣 研究員 「体験活動(経験)からの学び～学生との自然活動を通して～」

○第2回 第65回定例研究会 10月17日(火) 16:30～ (第4会議室) 参加者18名

研究報告 亀澤 朋恵 研究員 「人間発達概念の深まりと教職意識

～与謝の海養護学校・青木嗣夫を中心に～」

第3回 第66回定例研究会 令和6年2月5日（月）16:30～（第4会議室）参加者17名
研究報告 山口 昌澄 研究員

「これからの保育者養成を考える～令和5年度高田短期大学

子ども学科採用先調査（卒業生学習到達度・獲得能力等）分析結果より～」

2. グループ研究会

グループ研究①「子育て支援について」（5名） 開催回数：5回

グループ研究②「おやこひろばたかたんにおける学生の学びについて」（3名）開催回数：2回

グループ研究③「自然保育とこれからの保育者養成」（9名） 開催回数：4回

グループ研究④「子どもの基本的な生活習慣と育児」（5名） 開催回数：7回

III. 学生支援事業

1. 地域保育関連の学生ボランティア活動

今年度より保育・子育てに係る地域のボランティア活動はボランティア支援センターが担い、本センターはおやこひろば等での学内ボランティアを中心に学生と共に進めています。ひろばでの経験が学生にとって貴重な体験と学びの機会となるように、事前のねらいや事後の振り返りを重視し、個々の学生を支援しています。

2. おやこひろば応援サークル「たんたんクラブ」

保育や子育て支援を学ぶ目的のサークル「たんたんクラブ」は発足6年目となりました。授業と重ならないように自分たちで日を調整し、壁面や遊具の作成やひろばへの参加を行いました。



IV. 広報物及び研究成果の発行

1. センターたより「いくぶん」第28号

8月末に発行しました。

2. 育児文化研究センター紀要「高田短期大学育児文化研究」

第19号（令和6年3月発行）

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文5編、調査報告2編、実践報告1編と定例研究会での研究報告要旨、4つのグループ研究会の活動報告等を掲載しました。

種別	テーマ	執筆者
研究論文	新任保育者の早期離職と若者の職業意識の関連性 ～保育学生が思い描く自身の将来像とは～	青木信子
研究論文	絵本の可能性を探る ～絵本の世界を遊ぶ保育とは～	岩附啓子
研究論文	地域における孫育ての取り組み（2） ～祖父母によるサポートの重要性について～	榎原尉津子・小川真由子 ・杉山佳菜子
研究論文	子どもの生活や育児の実際の捉え方！ ～子育てや孫育てについての調査研究より～	前畑みち代・藤重育子
調査報告	保育者養成と自然体験活動に関する調査1 ～学生の自然体験に関する意識～	福西朋子・青木信子 ・長倉里加・亀澤朋恵 ・河内純子・中嶋麻衣
調査報告	保育者を目指す高校生のキャリアに関する研究	藤重育子
実践報告	乳幼児親子の生活と支援 ～おやこひろば利用者における「おしゃべりしませんか」の実践から～	金森まさ子・稲田直子 ・大山美和・笠原美穂 ・前畑みち代

3. 子育て情報発信

「情報誌きらきら」（隔月発行：年6回）の育文センター担当頁「子育てライフ応援隊！一緒に子育てはじめましょ」への子育て情報を掲載。

掲載 Vol	掲載号 2年	発行 予定日	広場・相談 掲載日程	テーマ（担当）	
				子育てアドバイス	おやこひろば より （ひろばスタッフ）
74	5・6月	5/25	6・7月	遊びから学ぶ！（権部）	梅雨から初夏に向けての過ごし方
75	7・8月	7/10	8・9月	センス・オブ・ワンダーが 弾ける世界に（福西）	空を見上げてプチ防災！
76	9・10月	9/25	10・11月	育児について思うこと（大野）	子どもたちの心と 体たくましく…実りの秋
77	11・12月	11/25	12・1月	「製作？」「制作？」 ～子どもの造形活動～（亀澤）	寒さに負けない心と体を育もう！
78	令和6年 1・2月	令和6年 1/25	令和6年 2・3月	子どもの心の育ちについて 最近思うこと（山口）	子どもの健やかな成長を 願って・・・
79	令和6年 3・4月	令和6年 3/25	令和6年 4・5月	様々な文化財に 出会う・生み出す（古谷）	入園・入学・進級で胸が膨らむ季節 子どもの心を知っておこう！

V. 地域連携事業

1. みえ次世代育成応援ネットワーク

みえ次世代育成応援ネットワークに運営委員として参画し、県行政と地元企業や地域子育て団体と連携し、子育て支援活動事業に取り組みました。

「みえの子ども応援プロジェクト」ありがたいの一行詩コンクールには多くの学生が応募し、1名が入選しました。

2. みえこどもの城連携協定による事業

「たかたん あそびひろば」 12月16日（土）

3. 地域啓発事業 主催講演会

「まず体感しましょう！森林浴。美杉の実践活動から
～森のゆらぎに身をまかせ、自分のリズムを取りもどす～」

講 師 長島 秀雄氏 他（森林セラピスト）
日 時 10月28日（土）13：30～16：00
場 所 高田短期大学 カフェテリアおよび森のひろば
参加者 保育関係者及び学内外研究員28名程度



4. 地域連携自然保育推進事業

9月14日（木）に「みえ自然保育協議会」が設立されました。「自然保育」を核として、組織・分野・地域を越えて相互に対話を進め、連携・協働して子どもが豊かに過ごすことができる地域社会づくりへの取組みを目的としています。

現時点で理事5団体、会員13団体とアドバイザー3団体で構成されています。高田短大は会長を拝命し、高田短大育文センターに事務局を置くこととなりました。

（＊インスタグラム「みえ自然保育協議会」に随時、情報をアップしていきます）

VI. 津市委託事業

1. ホッとひろば事業 講師：橋本 景子（高田短期大学 非常勤講師）

乳幼児を子育て中の親を対象として、ほんのひととき子どもから離れてホッとできる時間に、子育て中の親同士が交流できる場を4回実施しました。

第1回（母親対象）	8月23日（水）	10時～12時	参加者2名	託児2名
第2回（学童保護者対象）	9月29日（金）	10時～12時	参加者3名	託児なし
第3回（母親対象）	12月2日（土）	10時～12時	参加者3名	託児3名
第4回（父親対象）	令和6年2月25日（日）	10時～12時	参加者5名	託児5名

キャリア研究センター

1. 地域連携事業

（1）「津市」「一身田商工振興会」連携・協力事業

「一身田寺内町PRポスター」の作成、報告会の開催、掲示

キャリア研究センターでは津市、一身田商工振興会と連携して、一身田寺内町の活性化に取り組んでいます。その一環として、キャリア育成学科オフィスワークコース中畑ゼミの学生が「一身田寺内町PRポスター」の作成に取り組みました。

学生が一身田寺内町を実際に歩きお店も訪問させていただき、こういうことアピールできるのに、こうしたらよいのになど気付いた課題を基に複数のポスター案を作成しました。

その案の報告会を、一身田商工振興会、津市、一身田寺内町の館、一身田寺内町ほっとガイド会の方々を招き、6月30日（金）に本学で開催しました。

参加いただいた方々からの意見や提案を受けて、ポスターのブラッシュアップを行い、一身田商工振興会や各お店、一身田寺内町の館などにお届けしました。

作成したポスターはそれぞれのお店に掲示されています。また、寺内町まつりのPRポスターは一身田地区を中心に、各町内の掲示板に掲示されました。



【 作成したポスター 】

「イセイモは高田を救う ISEIMO RANGER 2023」

オフィスワークコース川喜田ゼミでは、高田会館あかり屋との共同企画、「ISE 芋でつながろう2021」サンジノイセイモ商品開発に引き続き、「イセイモは高田を救う ISEIMO RANGER 2023」プロジェクトを立ち上げました。高田会館翔南閣エントランスのインスタ映えスポット提案に加え、新たなお菓子の商品開発につき、提案しました。



12月には学生ひとり一人の提案を支配人に向けプレゼンを実施。

フィードバックを元に再考した案をもって寺内町の和洋菓子店を訪問し、プロジェクトへの賛同を求めました。結果、サンジノイセイモに引き続き、春乃舎様と伊勢芋パウダー入り落雁を開発することとなりました。令和6年7月実施予定の一身田七夕祭りでのお披露目を目標に活動を継続しています。

（2）三重県信用保証協会との連携事業

三重県信用保証協会と高田短期大学は地域への貢献、産業人材の育成、産業振興、創業・起業支援に寄与することを目的に連携協定を結んでいます。

産業人材の育成、創業・起業支援の活動の一環として、オフィスワークコース2年生のビジネス実務論の講義の中でお話を頂いています。



今回は三重県信用保証協会の総務部経営企画課室長の奥田京子様と栢原寛様にお越しいただき、「三重県信用保証協会と金融について」と題して、6月29日（木）にお話をいただきました。



（3）津市中央公民館との共催事業

第1回パソコン＆スマートフォン教室「もっと便利に！インターネット活用術」

本年度1回目は、9月2日（土）、本学PC教室にて開催しました。スタッフは、鷺尾研究員、オフィスワークコースの学生ボランティア7名、「情報ボランティアみえ」（以下、じょぼみ）のスタッフ5名です。受講者は津市内の一般の方で募集多数のため抽選で20名の方に来ていただきました。

内容は、情報検索の基礎、マップ検索とストリートビュー、画像検索（Googleレンズ）で、

G o o g l e 検索を使いこなすとともにスマホでの検索の活用も行いました。まとめとして、スタッフ 1 名と受講者 2 名がグループとなり、鷺尾研究員が課した情報検索問題にグループで取り組んでいただきました。会話を弾ませながら、学生たちと受講者が問題に取り組む様子はとても素晴らしいもので、閉会式のあとに受講者から、多くの感謝の言葉をいただきました。アンケートにもスタッフ（特に学生）への感謝の言葉があり、反省会で披露すると学生は大変喜び充実した様子でした。

パソコン・スマホ教室サポーター養成講座

平成 25 年度から行っていたパソコン指導ボランティア養成講座は、コロナ禍により令和 2 年より中止となりましたが、近年スマホの学習意欲が高くなっていること、講師よりもまずは支援スタッフの養成が急務ではないかということから、パソコンとスマホの両方の教室のサポーターを養成する講座として再開することとしました。

初回は、11 名の参加がありましたが、2・3 回目は 8 名の参加でした。1・3 回の講座はじょぼみスタッフのみで開催、2 回目は ZOOM でのオンライン講座とし、鷺尾研究員がファシリテーションと講師を行いました。最終日となる 4 回目は、2 回目のパソコン＆スマートフォン教室でのサポーター実践でした。6 名の方がスタッフとして活躍し、修了証が中央公民館担当者より手渡されました。

パソコン・スマホ教室サポーター養成講座

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

- 1 回目 講座概要、パソコン指導とボランティアについて
11 月 18 日（土）10:00～12:00 於：中央公民館
- 2 回目 サポーターの姿勢と基本知識
11 月 28 日（火）19:00～20:30 於：Zoom 開催
- 3 回目 指導内容の理解と配慮事項
12 月 16 日（土）10:00～12:00 於中央公民館
- 4 回目 パソコン・スマホ教室でのサポーター体験
1 月 20 日（土）9:00～15:30 於：中央公民館
（体験する教室の時間は 10:00～14:45）

令和 5 年度第 2 回パソコン＆スマートフォン教室「もっと便利に！インターネット活用術」

令和 6 年 1 月 20 日（土）に今年度 2 回目となるパソコンとスマホを対象としたパソコン教室を、今回は津市中央公民館で開催しました。鷺尾研究員と学生 3 名、じょぼみスタッフ 6 名、前述のサポーター養成講座受講者 6 名が講師＆援助者として参加しました。受講者は、抽選の上 19 名が参加しました。内容は 1 回目と同様 G o o g l e 検索や G o o g l e レンズ、G o o g l e マップなどの検索術を学び、最後に開発した検索問題を受講者とスタッフでグループを作り、協力しあいながら楽しく解いていきました。

参加した学生は、シニアの受講生とコミュニケーション力、パソコン、スマホの知識を活かして楽しく支援をしており、特に、スマートフォンの活用については受講者だけでなくスタッフにも教えることが多くあり、学生参加が次回も期待されています。



使用したテキストの表紙（学生作成）

(4) 湯元榊原館との連携に係る事業

令和4年9月30日(金)、高田短期大学と有限会社湯元榊原館は相互に連携協力することにより、地域の発展、人材の育成に資することを目的として、連携・協力に関する覚書を締結しました。

令和5年度は、キャリア育成学科オフィスワークコースで地域経営に関わる「チームプロジェクト演習Ⅰ」及び「ゼミナールⅠ」(伊東ゼミ)の2科目を履修する1年生が活動に携わりました。

「チームプロジェクト演習Ⅰ」は、キャリア育成に関する専門的な知識や技能を活用し、津市の観光資源が持つ魅力を来訪者向けにデザインする科目であり、11名の学生が履修しています。また、「ゼミナールⅠ」(伊東ゼミ)は、津市の景色を「若者」や「よそ者」の目線から考察し、各学生が地域マネジメントに関する専門的な知識や技能を地域社会の実態に応じて活用する科目で、8名の学生が履修しています。

両科目とも、榊原温泉地域でフィールドワークを実践するにあたり、各学生がS T P分析やS W O T分析を試みたところ、津市内にある個々の観光資源は国内にある同種の観光資源と比べて稀少性を有しているものの、その稀少性から得られる経験価値が十分に訴求されていないことを仮説として導き出しました。

そこで、榊原温泉地域の経験価値を間近で確かめるべく、両科目を履修する学生が12月17日(日)に湯元榊原館へ訪問し、代表取締役社長前田諭人様から地域住民や事業者、来訪者の実態を聞き取りました。前田様の見解を参考に「ゼミナールⅠ」(伊東ゼミ)を履修する1年生が津商工会議所設立130周年記念「ビジネスアイデアコンテスト」に応募し、優秀賞(第2位)を受賞しました。



2. 公開セミナーの開催

(1) 就業支援セミナー「クレーム対応基礎講座」を開催

「クレーム対応基礎講座」を8月8日(火)に開催いたしました。参加者は11名で、行政機関の方や一般企業の方が参加され、その中には卒業生の姿もありました。

講師はキャリア支援センター研究員で株式会社W i l l S t a f f代表取締役の長谷川聡子研究員が務めました。

参加者アンケートでは「大変満足」9名、「まあまあ満足」2名で、全員が満足の回答でした。また、自由記述では「事例も多く、理論だけではなくとてもわかりやすかった」「本日の講義の内容は、全て公務にも使えるもので非常に有意義な講義でした」など、高い評価の声を多くいただきました。



（２）就業支援セミナー「伝わるプレゼン Power Point 基礎講座」を開催

百五銀行・百五総合研究所との連携事業として、就業支援セミナー「伝わるプレゼン Power Point 基礎講座」を8月9日（水）に開催し、企業の方、一般の方22名に参加いただきました。講師は川喜田多佳子研究員が務め、同じく研究員の寺家尚美、キャリア育成学科オフィスワークコースの学生2名がサポートを行いました。

参加者アンケートでは「満足」「まあまあ満足」という回答で9割を超え、高評価をいただけたと考えます。自由記述では「便利な機能をたくさん学べてうれしい」「フォントの使い方困っていたのが解決した」などの声とサポート学生への感謝の言葉を多くいただきました。



（３）就業支援セミナー「売れていくをつくる！マーケティングの基礎と考え方講座」を開催

百五銀行・百五総合研究所との連携事業として令和6年2月14日（水）に本学で開催し、講師はキャリア研究センター長の中畑裕之が務めました。

マーケティング担当者の役割は何か、STP（セグメント、ターゲット、ポジショニング）や4つのP（製品・サービス、価格、販路・販売方法、プロモーション）といったマーケティングの基本ツールについて、また、ブランド戦略など基本的な競争戦略についてお話しをしました。その上で、自社の顧客（ターゲット）は誰なのか、自社の4つのPはその顧客に対して適切なのかについてそれぞれ考えていただきました。



参加者アンケートの結果は総合的な満足度は「大変満足」と「まあまあ満足」合わせて58%、「普通」が42%でした。満足との回答が多くなっているが、より高度な内容を期待してこられた先もあったと思われます。

当日欠席等があり参加者は12名、参加企業・団体数は9社であった。

介護福祉研究センター

Ⅰ. 研究活動

1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々や卒業生を研究員に招き、令和5年9月現在47名（内卒業生20名）の研究員が在籍しています。年間3回の定例研究会を開催し、各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。

場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

1) 第52回定例研究会 6月26日（月）18:00～19:30 参加者19名

・テーマおよび発表者：

- ① 「視覚障害のある認知症高齢者とのかわり」中村 匠 研究員（本学卒業生）
- ② 「半側空間無視のある入所者に対する居室認識の取り組み」出馬 宏海 研究員（本学卒業生）
- ③ 「自分らしく生活するための支援」前田 彩 研究員

- ・内容：特別養護老人ホーム報徳園に勤務の3名からの報告でした。中村さんの報告では、利用者の行動を観察するだけでなく、職員の言動に対してどのような反応があったのか等が具体的に報告されていました。出馬さんの報告では、利用者の行動をもとに分析や工夫を繰り返しおこなっている様子について写真も交えながら具体的に報告されました。前田さんの報告では、支援者が思い込みで判断するのではなく、相手を知ろうとする気持ちや原因を探ろうとすることの大切さに気づいたということが報告されていました。それぞれの報告に共通していたことは、利用者の行動を問題行動として捉えるのではなく、「何を伝えたいのか、どのような人なのかを理解したい」という思いが支援の出発点になっており、丁寧な日々のかかわりの記録をもとに実践内容を検討されているという点でした。参加者からは、日々の業務だけでも大変だと感じる事が少なくない中、あたりまえの毎日に関心をもつことや、記録をもとに職員同士で語り合うことができる環境の大切さを感じることができたという感想が出されました。



2) 第53回定例研究会 9月8日(金) 17:00～18:30 参加者15名

- ・テーマおよび発表者：「利用者に寄り添う支援」久保 朝水 研究員（本学卒業生）
- ・内容：久保研究員は社会福祉法人サンフラワークラブ生活支援員です。施設の紹介や利用者の一日の様子について、写真も交えながら具体的に報告され、参加者からは行事の内容等について積極的な質問が行われました。また、利用者に関わり添い関わる中で、ずっと同じ支援ではなく、変えることで新しい発見があったり、コミュニケーションや表情、動きからいつもとは異なる変化に気づいたりすることがあると報告されました。悩みながらも利用者に関わり続け関係性を築いていったことで「利用者との関係の変化」、学生時代には気づかなかったことに気づいたり、学んだことがつながったりと「自分自身の成長」など、働くなかで変わったことも報告され、卒業生の成長した姿を感じる嬉しい時間となりました。



3) 第54回定例研究会 令和6年2月27日(火) 17:00～19:20 参加者11名

・テーマおよび発表者：「価値の実現と幸福について」

～ 価値観を擦り合わせて、幸福を膨らませるために～

山本 啓介 研究員

- ・内容：山本啓介研究員から「価値の実現と幸福についての考察」をテーマにお話をいただきました。先人らの幸福観、映画のタイトルや商品のキャッチコピー等を具体的に挙げながら、人々は幸せを願っており、世の中には「幸せ」が溢れていることを確認したうえで、幸せとは個人の主観であると報告されました。本学の授業で行われている「価値観交流学習」についても取り上げられました。幸せや幸せの条件は、社会制度や文化によって異なるが、だからこそすべての人の幸福のために国や社会が為すべきことは多いのではないかという報告が印象に残りました。発表の最後は、昨今の「戦争」に思いを馳せ、価値観を統一する必要はない、必要なのは尊重し合うことだと熱いメッセージをいただきました。

その後、「幸せの視点はそれぞれ違う」「幸せを言葉にすると違ったものになる」等、研究員同士の積極的な意見交換もあり、あっという間に時間が経ち、皆で有意義な時を過ごすことができました。



II. 実施事業

1. 介護福祉セミナー

1) 介護福祉セミナー

11月25日(土) 13:30～15:30 参加者：24名

テーマ：「リハビリあそびうたで楽しみましょう♪」

講師：音楽療育施設 リズムラビット 矢野 加奈子 先生(本学卒業生)

著書：「いいところ いいところ みつけてこ」



支援が必要な子どもは、普通に文章で話してもわかりづらい、自分に言われていることに気づかない、何度言っても習得しにくい等の特徴があります。リズムやメロディに合わせて、擬音語・擬態語・擬声語等(ガチャ・キラキラ・ザーザー等)を用いることで、言語力、協調性を楽しみながら育んでいけるとお話をいただきました。これら擬音語・擬態語・擬声語を「オノマトペ」といいます。参加者が、「オノマトペ」を用いて、実際の場面で、どのような言葉をかけたらよいか体験するとともに、歌やゲーム等の音楽プログラムを楽しく学びました。



Ⅲ. 介護のみらいを考えようーあなたの思いやりを言葉にしてみようー作文コンクール

今年度の作文コンクールの開催は見合わせる。

第1回から第3回の受賞者の冊子を、下記に配布し介護の啓発を行いました。

- ・配布先は、津市教育委員会、亀山市教育委員会、松阪市教育委員会、鈴鹿市教育委員会、受賞者と保護者、受賞者の学校、津市・亀山市・松阪市・鈴鹿市の全小中学校（公立）、高田中学、県内の特別養護老人ホーム、実習施設、介護福祉コース1・2年生。

Ⅳ. 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

ー身田桜町地区との連携事業「一身田桜町にここサロン」講師派遣

9月25日（月）10：00～11：30 参加者 16名

一身田桜町地区の高齢者対象の「桜町にここサロン」が開催され、中川千代研究員が講師として参加しました。テーマは「レクリエーションを通じた介護予防」です。ジャンケンを使ったアイスブレイキングの後、サラリーマン川柳をもとにクイズ形式で答えていただきながら川柳を皆で読み合わせました。その後、戦後から昭和40年代頃の歌謡曲や演歌が題材の「思い出かるた」を取りながら大声で口ずさみ、当時の思い出を語り昔話に花を咲かせました。



Ⅴ. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第10号（令和6年3月発行）
執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。
研究論文1編、実践報告2編、研究ノート1編、調査報告1編に原稿依頼しました。

高田短期大学介護・福祉研究第10号執筆一覧

*掲載順は各種別順

No.	研究員名	単・共	原稿種別	表題
1	千草 篤磨	単著	研究論文	発達保障論と仏教福祉 ～頼尊恒信氏に対する疑問を通して～
2	服部 優子	単著	調査報告	介護施設現場においての実習指導者が抱える 実習指導への不安と課題について
3	山本 啓介	単著	研究ノート	価値の実現と幸福についての考察
4	川喜田 多佳子 寺家 尚美	共著	実践報告	E x c e l の表設計にみられる問題への一考察
5	桂 三発	単著	実践報告	座敷童が出ました

その他

施設設備の整備事業の実績

高田短期大学 1 号館講堂空調設置工事

施行業者 : 藤原工業株式会社
施工場所 : 1 号館講堂
施行費用 : 34,903,000 円
施工時期 : 令和 5 月 4 月～ 6 月



高田短期大学 2 号館音響設備工事

施行業者 : (株)松本無線音響設備
施工場所 : 2 号館大講義室、視聴覚室
施工費用 : 大講義室 2,208,360 円
 視聴覚室 1,638,120 円
施工時期 : 令和 5 月 9 月



【命の大切さを考える教育の推進】

本校の建学精神である「仏教の教え、親鸞聖人の教えに基づく宗教的情操教育」を校訓として仏教教育による人間味の豊かさを求め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨に努め、広い視野から社会貢献できる人間の養成を目指した教育を実践しています。

月1回の本山参詣や週1時間の一般仏教の授業及び校外宿泊学習での平和学習等において自他共にかけがえのない「命」を尊重し、人間は一人で生きられない存在であり、他者と共感共有し支え合って生きる重要さに気づけるよう努めています。特にいじめの未然防止といじめを許さない、いじめをさせないことなどを視野に入れて、行事や授業に反映させています。いじめ・体罰・ハラスメントについては、学期毎にアンケート調査を実施しています。

また、本山参詣で仏教講話を聴聞することを通して、聞くことの大切さ、その受容により共感する大切さを身につけることにつながると考えています。これらの体験活動を基盤として人権学習とも連携しあい、社会でのマナー、コミュニケーション能力を向上させ、自然との共生に関心を持って身近な日常生活の中で思いやりと慈しみのある生き方を涵養しています。



人権教育研修の推進

基本方針

本校は、宗祖親鸞聖人の教えを建学の精神として、宗教的情操を養い、互いの人格・人権を尊重できる人物の育成に努めています。生徒たちには「うわさや偏見に流されず真実を確かめ、自分自身の考えを持つ」「差別に立ち向かい行動する力をつける」「他者の異なった価値観を尊重しながら仲間同士のつながりを強める」ということを具体的な目標として人権教育を実施しています。

生徒への人権教育

- ①学年人権LHR：学年ごとに人権テーマを設定して、実施します。各クラスでのLHRなどを通じて、身近な人権課題を考える機会をつくり、日ごろから人権を意識するように努めています。
 - ・7月3日（月）高Ⅲ・6を対象に「願書・履歴書・面接と人権」と題した学年人権LHRを実施しました。
 - ・7月6日（木）高Ⅰ・4を対象に「マイノリティと多様性」と題したヒューリアみえの松村元樹さんによる講演会を開催しました。
- ②文化祭の人権展示 9月13日（水）
 - ・人権メッセージ（高Ⅲ・6、高Ⅰ・4、中2、中1）：テーマに従った人権メッセージを全員が作成して、展示発表しました。今年度のテーマは三重県人権センターが募集している「人間の尊さや自由と平等の大切さを訴えることにより、人権を尊重する社会をつくっていくために、身近に感じた（体験した）ことから自分はどう考え、どう行動するのか。」で、学年別に代表作品を選出して応募しました。
 - ・平和学習に関する事前学習（高Ⅱ・4、中3）：校外宿泊学習へ参加する学年がテーマの一つで

ある平和学習の成果を文化祭で発表しました。

③校外宿泊学習の平和学習（高Ⅱ・５、中３）：１０月に、長崎（高Ⅱ）・広島（高５、中３）の被爆地において平和学習のフィールドワークを行いました。

④ピンクシャツ運動（高校生徒会）：１１月２０日（月）～３０日（木）に実施

⑤地域の人権活動（中学校生徒会）

- ・１１月２４日（金）一身田小学校で開催された一身田中学校区子ども人権フォーラム参加。
- ・１２月９日（土）一身田中学校で開催された一身田中学校区人権フェスティバル参加。

⑥学年人権ＬＨＲ（人権講演会）：１２月の２学期末考査後に、高校は学年別で、中学校は全体で実施しました。

- ・高Ⅲ・６年は、「社会へ羽ばたくみなさんへー“わたし”らしく生きるを考えるー」と題して本江優子さん（反差別・人研究所みえ）に講演して頂きました。
- ・高Ⅱ・５年は、「自分と向き合うことからはじめませんか？ー今もある部落差別の現実からー」と題して原田朋記さん（反差別・人権研究所みえ）に講演して頂きました。
- ・高Ⅰ・４年は、「あたりまえの世界をめざしてー外国人技能実習生と企業ー」と題して朝倉達也さん・岡本純子さん(株日塗建)に講演して頂きました。
- ・中学校でも、「あたりまえの世界をめざしてー外国人技能実習生と企業ー」と題して朝倉達也さん・岡本純子さん(株日塗建)に講演して頂きました。

⑦人権ウィーク「人権に関する授業」（全校生徒）：１２月１８日（月）～２０日（水）



教職員への人権研修

①各種の人権研修：人権教育推進担当を中心に積極的に参加して成果を職員会議などで還元しています。

- ・５月 １日（月）今年度本校に着任した教員対象に初任者研修を実施しました。
- ・５月１９日（金）第１回地区別人権教育研修会に参加しました。
- ・５月２０日（土）津人教第１８回総会・記念講演会に参加しました。
- ・６月 ９日（金）「せいかつ」実践交流会に参加しました。
- ・７月２５日（火）拉致問題に関する教職員等研修にオンラインで参加しました。
- ・８月 ４日（金）一身田中学校区人権教育推進プロジェクト教職員人権講演会に参加しました。三重テレビ放送の小川秀幸さんによる「かけはし～ハンセン病回復者のとの出会いから～」という内容でした。
- ・８月１７日（木）三重県教育委員会が開催する人権学習指導資料等活用のための講座「部落問題」「様々な人権問題・性的マイノリティの人権」に参加しました。

- ②高田学苑教職員人権研修：8月18日（金）実施。フレンテみえの武藤祐太さんによる「性の多様性を考える～私たちにできること～」という内容でした。
- ③人権フィールドワーク：8月28日（月）実施。人権教育推進委員会と有志教員の合計27名が参加しました。今年度は、ウトロ平和祈念館（京都府宇治市）を訪問しました。
- ④高田中・高等学校人権研修
- ・人権ウィーク「人権に関する授業」（全教職員）：12月18日（月）～20日（水）実施。生徒が人権について考えるきっかけとするために、期間中の授業において各教員の独自の視点から人権に関する授業を行いました。
 - ・高田中・高等学校教職員人権研修会：3月19日（火）実施。反差別・人研究所みえの本江優子さんによる「障害者差別解消法における合理的配慮の提供の義務化について」という内容でした。人権感覚を磨くことは今の自分を見つめ直すことであり、他人任せにすることでは身に付きません。様々な課題を抱える厳しい現代社会の中でいかに生きるかを模索し、今後も地域や家庭と連携を取りながら人権教育を着実に進めていきたいと考えています。

【きめ細やかな学習指導の推進】

生徒に寄り添った親身の指導という点において、生徒や保護者の方々から高い評価を頂戴しています。その期待に添うように個々の生徒の学力や学習進度、到達度に応じた綿密な指導を行うとともに、学習面のみならず個々の生徒の環境や状況、特質や個性を鑑みた総合的な指導を心がけています。

各教科の授業は年間指導計画に基づき実践されるのは勿論のこと、SHRや放課後の小テスト、補講、夏期講習などの時間を設定し、通常の授業では導入しにくい反復学習や発展的学習の機会を多く取り入れています。また、考査後に個別懇談、一学期末には保護者を交えた三者懇談などを行い、生活指導も含めた学習指導や進路実現のためのサポートの充実を図っています。そのために中学校は学力推移調査、高等学校はスタディ・サポートを導入し、より精緻な指導に役立てています。さらに、夏季休業中においても、各学年で工夫したセミナー等を実施し、苦手な分野の克服やキャリア教育の充実に努めています。こういった活動は生徒の内面的成長と自己実現に有意義な成果をもたらすものと考えます。

生徒を取り巻く環境が多様に変化を重ねる昨今、不登校や精神的な悩みを抱える生徒の数は増加の一途を辿っています。これに即応するため、本校では教育支援委員会、生徒指導部、各学年、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、カウンセラーが連携して保護者や生徒の心理的負担を少しでも軽減できるよう心身のケアに努めています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、生徒が実体験すべき活動が停止、またはオンラインということもあり、キャリア教育の場が損なわれていましたが、感染症法上、第5類に引き下げられたことにより、様々な活動を徐々に元に戻している状況です。生徒が安心して充実した学校生活が送れるよう、さらなる創造と工夫を重ね、生徒の自己実現を目指した教育を実践していきたいと考えています。

【ICT教育とアクティブラーニング対策の推進】

令和3年度より、中学1年生（58期生）に一人1台の端末を導入し、昨年より3年コースの高校1年生、6年コースの中学1年生に対し、一昨年と同様に一人1台の端末導入を実施しました。端末はiPadの64GBセルラーモデルを学校から貸与する形式です。他の上級学年では、BYODで教育活動を行っています。教育用アプリケーションは主に、ClassiとGoogle Workspace for Educationを活用し、コラボレーションの促進、指導の効率化、学習環境のセキュリティ確保の実現を目指し、また、ドライブを利用して、授業や部活動で資

料共有や動画共有を行いました。C l a s s iでは学習記録の蓄積、アンケート、ポートフォリオの蓄積などに活用し、さらに保護者とのコミュニケーションツールとしても使用し、保護者からの欠席連絡、学年や担任から保護者への連絡などに活用しました。3年コースでは、学習補助教材としてスタディサプリおよびスタディサプリイングリッシュを導入し、基礎学力の定着に活用しました。i P a dを利用した学習は、リモートによるグループ研究、校外活動などの場で有効に機能し、生徒の学習意欲の向上に繋がっています。電子黒板を活用した授業では、日々教員間で利用に関する工夫と改善が行われ、図やグラフ、動画、資料、教科書などを補助教材として積極的に利用するとともに、板書は従来通り黒板にまとめるという形式が定着し、アクティブラーニング等へ機能的に活用することができています。

また、N T Tのビジネスチャットであるe l g a n aを導入しており教員間のコミュニケーションツールとして有効に機能しています。

【キャリア教育の推進】

生徒が育つ社会環境の変化は生徒たちの心身の発達にも影響を与えています。加えて産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、生徒たち自らの将来のとりえ方にも大きな変化をもたらしています。こうした状況下で、変化を恐れず、社会に対応していく力を育てることが不可欠となってきました。

生徒が未知の知識や体験に関心を持ち、仲間と協働して学ぶことを通して、未経験の体験に挑戦する勇気とその価値を得ることで、生涯にわたり学び続ける意欲を維持する基盤を作り出せるものと考えています。

社会体験等の校外活動は、他者の存在の意義を認識し、向社会性を高めたり、社会との関係を学んだりする機会となり、将来の社会人としての基盤づくりともなると考えられています。その基本に基づき、本校は、ほとんどの生徒が進学を希望している関係上、進路情報の豊富な企業や大学と連携し、自己研鑽の一助としています。

進路・職業観を考える学習会等

	鈴鹿医療科学大学連携講座	進路ガイダンス
対 象	高Ⅰ・Ⅱ年	高Ⅰ・Ⅱ年
内 容	臨床検査学科関係者による医療技術の現状説明	高Ⅰ：分野別進路選択ガイダンス 高Ⅱ：大学・短大・専門学校の個別相談会
実施日	7月実施	高Ⅰ：3月実施　高Ⅱ：12月実施
	名古屋産業大学連携講座	四日市看護医療大学
対 象	高Ⅰ（4年）	高Ⅱ・Ⅲ
内 容	現代ビジネス学部の教員によるユネスコスクール（環境学習）の活動	ミニオープンキャンパスの開催
実施日	毎月実施	5月実施
	高田短期大学	医療講座
対 象	高Ⅱ・Ⅲ	高Ⅲ（6年）
内 容	子ども学科、キャリア育成学科（オフィスワークコース・介護福祉コース）による模擬授業体験	現役医師の声 ・医師のやりがい ・三重県内における地域医療
実施日	6月実施	5月・6月実施

四日市看護医療大学 ミニオープンキャンパス



名古屋産業大学 高大連携講座 ユネスコスクールの活動



東京キャリア研修

7月24(月)、25日(火)の2日間、高校4年生が東京キャリア研修を実施しました。

1日目はまず、東京大学に訪問し、宇野健司先生による模擬講義を受けました。緊張感を持って大学での学びを体験できました。また、現役東大生との交流会、キャンパスツアーも行い、実際の大学生活を身近に感じられました。夜には現役の東大生の先輩方と座談会を行いました。本校の卒業生ということもあり、高校生としての過ごし方をより実感を持って聴くことができました。

2日目は国会議事堂での研修でした。議場を見学し、大変よい刺激を受けることができました。また、本校OBである田村憲久衆議院議員から激励のお言葉も頂戴し、生徒一同、身の引き締まる思いとなりました。

東京へ実際に赴いて研修を行えたことで、文理選択を控えた4年生にとって、進路意識が向上し、将来のことを考える大変有意義な研修となりました。



比叡山校外宿泊学習

中学1年は、7月24日(月)～26日(水)の日程で伝統行事である比叡山校外宿泊学習に参加しました。令和2年度から新型コロナウイルスの影響で、中止または1泊2日の行程でしたが、本年度は、4年ぶりに2泊3日の行程で宿泊学習を行うことができました。

初日は、午前中に横川を、午後には西塔を参詣しました。生徒たちは諸堂での講話に熱心に耳を傾けていました。夜は延暦寺会館で先生方の講話を拝聴した後、仏青インターアクト部の高校生4人によるレクリエーションを楽しみました。

2日目は朝5時半に起床し、根本中堂で読経と法話を聴聞しました。その後、東塔の諸堂を巡拝

した後、無動寺谷を下って大乘院に参詣しました。急勾配の山道を歩くことで、回峰行の厳しさの一端を感じることができました。午後は班別で探究活動を行い、その成果を夜に発表しました。

3日目の朝も根本中堂で読経と法話を聴聞しました。その後、比叡山を下り、親鸞聖人生誕の地である日野の法界寺と得度の地である青蓮院を訪れて、帰途につきました。

3日間にわたる比叡山での共同生活は、今後の生徒たちの成長につながっていくものと期待しています。



志賀高原校外宿泊学習

中学2年は8月24日（木）～26日（金）まで、志賀高原での校外宿泊学習に参加しました。行き道では雨に降られましたが、その他の行程は晴天に恵まれ、充実した3日間を過ごすことができました。

1日目は竜王山山頂にロープウェイで登り、標高1,770mからの景色を堪能しました。夜には志賀高原環境ガイドの先生をお招きし、翌日に散策する志賀高原やユネスコエコパークについて講義をしていただきました。

2日目は約10kmの志賀高原散策を6時間かけて行いました。生徒たちは普段の生活の中では見ることのできない植生に興味津々で、ガイドさんの説明に対しても熱心に耳を傾けていました。夜にはバーベキューを行い、大変盛り上がりました。

3日目は善光寺を訪れました。善光寺を参拝、松谷先生から善光寺についての説明を聞いた後、善光寺から長野駅にかけての自由散策を行いました。

この3日間で志賀高原をはじめ、様々な場所に赴き、たくさんの新しいものに触れることができました。今回の経験を、今後の生活の中での自然との関わり方について考える契機にしたいと思います。また、この3日間、仲間と協力して物事に取り組むなかで自主性や社会性の面で変化がみられました。今回の活動を通して、大きく成長した生徒たちの今後のさらなる活躍を期待したいと思います。



大学等との連携事業

学習・進学意欲の向上、各分野への興味・関心の深化を目的として、各学年・コースで、三重大学や鳥羽水族館等と連携事業を毎年実施しています。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策も大幅に緩和され、ほぼコロナウイルス感染拡大前と同様の内容を実施することができました。さらに2学期からは三重大大学のみならず豊田工業大学や名古屋市立大学の出前授業も行いました。

各大学の連携事業の詳細は以下の通りです。

【三重大大学】

1. 依頼講座数 : 15 講座(講師 14 名)
2. 高田高校実施 : 11 講座(事前学習講座 1 講座を含む)
三重大学実施 : 5 講座
3. 9 月末までに実施した講座の内容

人文学部

①文化学科日本研究 森 正人 教授

「ディズニーランドと現代社会」

7 月 14 日(金) 13:30~15:00

高田高校本館 3 階大会議室

高 6 年 1 名・高 11 年 28 名・高 4 年 47 名



②文化学科法律経済学科現代経済研究 野崎 哲哉 教授

「お金って何?—マネーゲームのからくり—」

7 月 18 日(火) 13:30~15:00

高田高校本館 5 階視聴覚教室

高 11 年 23 名・高 4 年 32 名・高 1 年 8 名



③文化学科アメリカ研究(アメリカ史) 森脇 由美子 教授

「ヒーローから見たアメリカの歴史

—19 世紀ニューヨークの社会—」

9 月 29 日(金) 15:40~17:10

高田高校本館 5 階視聴覚教室

高 11 年 3 名・高 4 年 10 名・高 1 年 21 名



教育学部

④国語教育国文学(近現代) 和田 崇 准教授

「コントで学ぶ文学理論」

7 月 12 日(水) 15:40~17:10

高田高校本館 5 階視聴覚教室

高 11 年 1 名・高 11 年 14 名・高 4 年 28 名・高 1 年 9 名



⑤学校教育 南 学 教授

「心理学はどんな学問か?」

7 月 19 日(水) 13:30~16:30

高田高校本館 3 階大会議室

高 11 年 1 名・高 11 年 21 名・高 4 年 34 名



⑥社会科教育自然地理学・水文学 宮岡 邦任 教授

「地域の防災・減災」

11 月 17 日(金) 15:40~17:10

高田高校 3 号館 3 階物理室 高 4 年 3 名・高 1 年 28 名



工学部

⑦学研究科電気電子工学専攻（電気システム工学） 駒田 諭 教授

「レゴを使ったロボットプログラミング」

事前学習：7月11日（火） 16:30～17:30

高田高校2号館3階東選択教室 高4年14名・高1年26名

実験実習：8月25日（金） 9:00～16:00

三重大学工学部電子情報棟内実験室 高4年14名・高1年26名



⑧学研究科情報工学専攻（知能工学） 松岡 真如 准教授

「リモートセンシングとデータサイエンス」

8月28日（月） 13:30～15:10

高田高校3号館3階物理室

高11年7名・高4年12名・高1年1名



⑨研究科物理工学専攻（ナノ工学） 藤原 裕司 准教授

「物理基礎実験」

8月30日（水） 13:00～16:00

三重大学総合研究棟1 1階実験室 高11年9名



⑩工学研究科物理工学専攻（ナノ工学） 藤原 裕司 准教授

「磁石の話」

11月15日（水） 15:40～16:40

高田高校3号館3階物理室 高4年27名・高1年9名



生物資源学部

⑪生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学）

三宅 英雄 准教授

「光るタンパク質を調べよう」

8月23日（水） 10:30～16:00

三重大大学生物資源学部2階実験室

高5年9名・高11年5名・高1年2名



⑫生物資源学研究科生物圏生命科学専攻（生命機能化学）

荻田 修一 教授

「PCRによるDNAの増幅実験」

8月23日（水） 13:00～16:00

三重大大学生物資源学部2階実験室

高5年17名・高11年10名



⑬生物資源学研究科附属施設附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター

(附带施設農場) 三島 隆 准教授

「三重大学農場実習」

8月28日(月) 9:00~15:00

8月29日(火) 9:00~15:00

三重大学附带施設農場

高II年2名・高4年13名・高I年5名



⑭生物資源学研究科生物圏生命科学専攻

(生理活性化学教育研究分野) 稲垣 穰 教授

「ウイルス感染の仕組み」

11月2日(木) 15:40~16:40

高田高校2号館3階東選択教室

高5年1名・高4年28名・高I年19名



高等教育デザイン・推進機構

⑮全学共通教育センター 太城 康良 教授

「医学・医療を支える解剖生理学」

7月20日(木) 12:30~14:30

高田高校本館5階視聴覚室

高4年40名・高I年13名



【豊田工業大学】

⑯工学部電子情報分野情報記録工学研究室 栗野 博之 教授

「最先端エレクトロニクスの基本は電磁気学」

10月27日(金) 15:40~16:40

高田高校3号館3階物理室

高II年15名・高4年4名・高I年1名・中3年4名



⑰工学部物質工学分野表面科学研究室 吉村 雅満 教授

「Seeing is believing!身近なもの(昆虫、植物、PM2.5、・・・)から原子の世界へ!」

11月4日(土) 13:30~15:00

高田高校3号館3階物理室

高II年3名・高4年3名・高I年2名・中3年4名



【名古屋市立大学】

⑱人文社会学部心理教育学科 久保田 健市 教授

「人間の多様性」

2月8日(木) 16:30~17:30

高田高校本館3階社会科教室

高5年3名・高II年28名・高4年7名・高I年10名

・中3年2名



⑨芸術工学部建築都市領域 久野 紀光 教授

「建築とは？」

2月19日(月) 15:40～16:40

高田高校本館3階社会科教室

高5年1名・高11年19名・高4年5名・高1年4名

・中3年2名



【鳥羽水族館】

毎年恒例のウニの発生実験を鳥羽水族館内の研修室で行った。

8月21日(月)・22日(火) 8:30～16:00

高5年30名・高11年23名

実施内容：その場でウニの受精卵を作成し、細胞分裂しウニが発生していく様子を顕微鏡で観察する。また水族館のバックヤードの見学をし、水族館の役割の1つである生物の保全や調査研究の最先端に触れる。



【部活動の推進】

部活動は、学年や学級を超えて共通の興味と関心を追求する中で体力や技術の向上はもとより、マナーやルールを守る社会性を身につけ、自らの意思で参加するという自主性を養い、活動を通して個性の伸長を図ることを目的とする教育活動の一つです。

集団活動の中で協力することを学び、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、部活動の楽しさや喜びを感じ、学校生活に豊かさをもたらすだけでなく、生涯にわたってスポーツ・文化・芸術・科学に親しむ豊かな人間性を培うことを目指し、継続的に取り組んでいます。

中学生においては人間形成をするうえで重要な時期であるため、継続して続けることに関して部顧問と密接に連携し、自分を律し他人を思いやることや社会のルールを学ぶ一助としています。

主な活動実績はつぎの通りです。

令和6年3月現在のクラブ活動所属生徒数

高等学校	文化部	21部	543名	(男157名・女386名)
	運動部	16部	599名	(男353名・女246名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	9部	156名	(男 53名・女103名)
	計		1,298名	
中学校	文化部	9部	191名	(男112名・女 79名)
	運動部	11部	354名	(男208名・女146名)
	生徒会直属部、同好会、愛好会	7部	53名	(男 13名・女 40名)
	計		598名	

活動実績		
高等学校		
運動部	インターハイ 全国大会出場	陸上部・新体操部・女子柔道部・馬術部・なぎなた部
	その他東海大会出場	剣道部・女子バレー部・女子卓球部・男子柔道部
文化部	全国大会出場	文芸部・演劇部・放送部
中学校		
運動部	全国大会出場	なぎなた部（ＪＯＣ個人の部 第５位）
文化部	全国大会出場 全国コンクール	放送部（朗読部門 最優秀賞 入選） 文芸部（東洋大学「現代学生百人一首」 入選）



【体育祭】

６月６日（火）に体育祭を開催しました。熱中症対策と新型コロナウイルス対策との両立に心配もありましたが、教員、生徒の皆さんの協力のもと、安全に行うことが出来ました。

【芸術鑑賞】

中学は６月１５日（木）に三重県総合文化センターにて、「東京演劇集団風」による「Ｔｏｕｃｈ～孤独から愛へ」を観劇しました。初めて本格的に演劇に触れる生徒も多く、とても有意義な１日となりました。

高校は６月２０日（火）に本校にて、「山口晃司三味線ＢＡＮＤ（須崎ＩＫＫＩ三絃会）／ＹＯＵＢＯＸ／マイケルジャクソン」による音楽鑑賞を行いました。

【文化祭】

９月１３日（水）は、コロナウイルス感染拡大防止対策として、食事場所をアーケードやグラウンドに設置するなど工夫し、クラス展示・模擬店を行いました。生徒達は非常に楽しんでいました。９月１４日（木）・１５日（金）は学年を分け、２日間同じ演目で体育館発表が行われ、部活動の発表や個性豊かな有志の発表で盛り上がりました。１４日には「ラバーガール」、１５日には「きつね」によるお笑いライブも開催され、生徒は大いに盛り上がっていました。コロナ禍で人と関わることを制限されておりましたが、昨年度より再び行事を通して、協力や団結の大切さ、芸術に触れる豊かさ、１人１人のもつ素晴らしい能力を発揮する機会の重要性を感じました。また、昨年度、

体育館にクーラーが設置されましたので、残暑が厳しい中、快適な環境で鑑賞することが出来ました。

【危機管理・安全教育への取り組みの推進】

火災、地震など予測不可能な緊急事態が発生した場合、発生時に冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災意識の高揚に取り組むべき事業を展開しています。

近年は想定をはるかに超える豪雨災害が頻発するなど、防災教育の重要性はますます高まっています。本校ではこのような予測不可能な緊急事態が発生した場合でも、災害に対する正しい知識に基づき、生徒が自ら冷静な判断力、速やかな行動力を発揮できるよう、防災教育に取り組んでいます。また、防災用品として昨年度導入した非常用リチウムイオンバッテリーにより停電時にも迅速に対応できる体制を整えています。今年度は9月2日（土）に津波対応避難訓練を行いました。

危機管理の取り組みとしては、学内機密情報の保護のため、パソコンや端末記憶装置の持ち込み等について、取扱規則を定めて個人情報の漏洩及びウイルス等の感染がないように、周知徹底を図っているほか、インターネット上での誹謗中傷等の書き込みなどにも傾注しています。

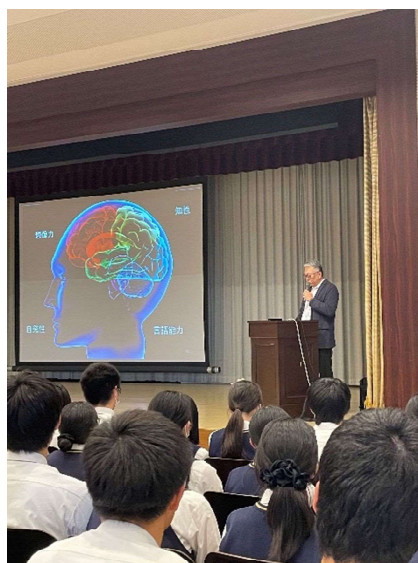
保護者への連絡手段としては、「あんしんネット」、「きずなネット」等により、最新情報を随時的確に提供しています。

学校安全・生活指導、保健計画の推進

学校安全管理の立場から道路交通法改正に伴う交通ルール遵守の呼びかけ、自転車の校内安全点検などを行っています。また、自転車が絡む交通事故が多発していることから、津ドライビングスクールと三重中央自動車学校へ講師を依頼し、新入生に対して自転車交通安全講習を例年実施していますが、昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染防止のため中止となりました。本校は約700名の生徒が自転車通学をしており、学校周辺は狭い道路や見通しの悪い交差点が多いこともあり、事故をおこさないよう基本的なルールや事故の悲惨さを訴え、知識や技術の向上に努めるとともに生徒と教員が街頭登下校指導をするなど、マナーアップや安全意識の高揚にも傾注しています。

このほか、社会生活面において、4月11日(火)には携帯電話・スマートフォンの使用マナーやネットワークにつながることの利便性、SNSの危険性に関する「スマホ携帯安全教室」を開催し、10月25日(水)には高川・6年に向けて「薬の正しい使い方」と題して、学校薬剤師の秦賢司先生による薬物乱用防止教室を実施しました。

また、18歳より選挙権が与えられたことの重要性を考慮し、令和6年2月21日(水)には村林法律商標事務所の村林優一先生にお願いし、高校11年生および5年生を対象に「有権者としての心構え等について」をテーマとした講演会を開催しました。生徒たちは主権者としての自覚と選挙への意識の高揚を図ることができました。



コロナウイルス感染拡大防止対策

令和元年12月初旬に中国の武漢市で新型コロナウイルスの第1例目感染者が報告され、世界的なパンデミックをもたらした新型コロナウイルス感染症も、令和5年5月には、感染症法上の5類

に移行しました。その後の、日常生活は、かなり平常の状態を取り戻しつつあります。

しかし、本校では、学校で蔓延する可能性のある感染症予防の観点から、各教室の手指消毒液の設置は継続しています。体育祭や、文化祭など大勢の人数が行動を共にする場合も多くあるため、状況に応じて保健衛生的な面については、注意を促しています。

また、コロナ禍において実施していました毎朝の生徒の体調チェックは、中央教育審議会答申（H20. 1. 17）「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体の取組を進めるための方策について」で、その重要性が述べられており、学校保健安全法（H21. 4. 1施行）においても位置付けられていることから、「健康観察」として C l a s s i のアンケート機能を利用して生徒からの毎朝の報告を継続しています。

今後は、子どもの心身の健康問題の早期発見、早期対応、感染症などの集団状況の把握、感染拡大の防止や予防を図ること、自己管理能力の育成を図ることを目標に取り組んでいきます。

【国際理解教育推進】

目 的	国際感覚豊かな人間育成のため、授業や諸行事に参加しながら異国の学生生活を体験し、友好を深めること。 互いの生活習慣や文化を学び、今後の交流振興に貢献すること。 受け入れ家庭が、生徒とともに学び、生活することにより異文化理解を深めていくこと。
-----	--

オーストラリア交換留学

平成6年（1994）より実施しているオーストラリアのセントモニカ校・パレード校との交換留学は、令和2年3月（訪豪）以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していましたが、令和5年度につきましては、9月19日（火）にオーストラリアのパレード校の生徒が18名来校し、本校の授業に参加することで国際交流をはかることができました。

また、パレード生は授業だけでなく各自が希望する部活動にも放課後参加し、なぎなた部や剣道部など日本の伝統文化ともいえる競技に触れることができ、また受け入れ側である本校生徒も自国の文化について改めて理解を深めるきっかけとなりました。日程上の都合により1日だけの来校でしたが、非常に有意義に過ごすことができました。

交換留学訪問に関しては、令和6年3月15日（金）に4年ぶりに第26回訪豪プログラムを実施し、高校生27名が参加しました。姉妹校での授業やホームステイを通じて、異文化を体感しグローバルな感覚を培う良い機会となりました。



イギリス語学研修

イギリス語学研修は、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止していましたが、令和6年度も実施することはできませんでした。次年度から実施再開予定です。

カナダ語学研修

ここ3年間のコロナ禍のため、国際交流活動に十分に参加できなかった生徒への配慮として、令和5年度限定でカナダ語学研修を令和6年3月17日（日）～4月1日（月）までの日程で行いました。この研修は、イギリス語学研修とほぼ同内容で、現地の語学学校インターナショナルクラスで他国の生徒とともに学ぶ英語学習を主眼に置いた研修プログラムです。研修場所はバンクーバー近郊で、28名の生徒が参加し、レベル別のレッスンを週30コマ受けました。研修中はホームステイをすることにより、英語の運用能力の向上や英語学習への意欲を育み、生徒個々人が他国の生徒との交流を通して積極的に活動を行いました。



留学生受け入れ

令和5年9月から1年間、スイスからの留学生1人を受け入れました。4年学年に在籍し、授業や学校行事等に共に参加し、意欲的に授業や学校行事に取り組んでいます。日本語の語学力も格段に向上し、日頃から日本語を正確に使用しようと努力する姿勢が見られます。本校生徒に取りましても留学生との交流を深めることで国際理解の多くの機会が得られました。令和6年7月まで在籍します。

オーストラリアとのオンライン交流会

本年度7月21日（金）・24日（月）に本校の姉妹校であるセントモニカ高校とオンライン交流会を行いました。英語部・中学3年生・高校1年生・高校2年生の延べ49名が参加しました。セントモニカ高校の生徒たちからは、本校の部活動やその活動時間、放課後の過ごし方などについての質問があり、本校の生徒たちからは、メルボルンの気候や現地での流行についての質問をしていました。

また、彼らの身の回りで流行っている音楽や、マンガ、アニメなどのトピックなどについても語り合い、有意義な交流となりました。各自、現在の自身の英語力を振り返り、今後の英語学習や本校の国際交流教育活動への参加の意欲が高まるきっかけとなる貴重な経験となったように思います。



イングリッシュ・キャンプ

本校ALTに加え、外部からのゲストALTを講師として迎え、高校1年生Ⅱ類・特別選抜クラスの生徒を対象に、毎年夏に「イングリッシュ・キャンプ」を実施しています。

生徒達は、オール・イングリッシュで様々なアクティビティに取り組み、1学期に授業を通して準備してきたプレゼンテーションを保護者参観で発表するなど、英語や異文化への興味・関心が深め、スピーキング力を高める良い機会となっています。

今年度も、生徒同士が親睦を深めながら、日頃の学習成果を存分に発揮しました。



「With the World (ウィズ ザ ワールド)」サービスの利用

英語コミュニケーションⅠが1単位多く設定されている高校1年生Ⅱ類・特別選抜クラスでは、英語で探究学習を実践するため、経済産業省が実施する「探究的な学び支援補助金2023事業」として採択された「With the World」のオンライン国際交流事業（グローバル探究学習）サービスを2学期に利用しました。世界の社会問題について情報を集め、その研究結果をインドネシアやパキスタンの生徒にプレゼンし、答えのない問題について議論を深めました。探究活動とオンライン国際交流を組み合わせることで、英語力を鍛えるだけでなく、世界の様々な出来事に対して問題意識を持ち、自ら必要な情報を集め、分析し、そこで得た気づきを仲間で共有し合うといった、主体的な学びの経験を得ることができました。



教職員海外研修

教職員の海外研修の成果については、職員会議・学校校報・研究紀要において報告を行い、他の教員と情報共有することで教員全体の意識向上を図っており、その成果が生徒へ還元されていくことで、教育の質の向上につながると考えますが、新型コロナウイルス感染症の影響や社会の情勢を考慮し、本校においては今年度も教員の派遣は行いませんでした。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上、第5類感染症に引き下がったことにより、今年度から再開できればと考えています。

【学校自己点検・学校関係者評価】

学校自己評価

学校自己評価については、例年「学校の教育目標や教育活動の内容・方法、教育成果、学校の管理運営などについて、より一層の教育活動の充実を図る」という趣旨で教育活動全般にわたる自己点検・評価を行い、継続的な改善更新、改革を図っています。

令和5年度の目標	
目指す学校像 (教育理念)	生徒・保護者・社会の期待に応え、伝統を重んじ信頼される私学を目指す。 校訓「言行忠信 表裏相応」の精神のもと、人間性豊かな人材を育成する。 崇高な志と社会に貢献できる人材を育成する。 自分の夢の実現に向けて、自ら学び、自己を律し、行動できる人材を育成する。
重点努力目標	人権・同和教育の推進、進路指導の徹底、基本的生活習慣の確立、規範意識に則った行動力を育成する、学力の向上と充実錬磨に努める、環境を大切に、世界に貢献できる人材の育成に努める。
点検・評価の日程	
令和5年 6月	前年度学校自己評価への評価結果報告及び継続的取組の促進
令和5年12月	評価項目の確認と評価方法の決定
令和6年3月末	評価実施
令和6年 4月	集計と分析
令和6年 5月	職員への結果の公表、評価結果の公表

授業アンケート

生徒による授業アンケートを2学期後半に実施する予定でしたが、このアンケートの内容の改善・更新や集約等に中心的に携わってみえた職員が2学期に急逝しました。それにより今回は実施しませんでした。令和6年度は新たに実施する予定です。

学校関係者評価委員会

自己評価や保護者、学校関係者による評価の実施・公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者や地域住民からの理解と参画を得ながら、学校・家庭・地域の連携協力により生徒の穏やかな成長を図り、健全な学校づくりを推進することを目的としています。

なお、評価委員は委員数8名（教育関係者、地元企業、地域自治会、保護者会）から成り立っています。ここ3年ほどは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止していました。令和5年度は開催予定でしたが、少なくなったとは言え、新型コロナウイルスの感染報告が続き、また、インフルエンザの流行も報告されたため中止となりました。

教職員資質向上への取り組み（初任者研修、学内研修、中部私学研修、中堅研修など）

教育を取り巻く環境が大きく変化する中で学校教育に対する期待に応えるには、教員の資質能力向上とスキルアップが必要なため、それに対応できうる教員研修を推進しています。

多種多様な資質能力を持つ人材の集まりである教員集団が連携することにより充実した教育活動が展開できることから、その能力の保持のためにも研修は重要と考えられます。

研修については、これまでの自分自身の教育活動を振り返るとともに、教育界の最新情報を理解して将来への課題を自覚し、これからのリーダーシップを発揮するためのものです。

本校のほとんどの生徒が大学進学を希望していることから、大学ごとの入試問題検討会にも積極的に参加し、大学によって毎年変更される問題傾向や入試情報を少しでも生徒に有利な環境に導くべく把握に努めました。

また、公立中学校へ出向いて行う模擬授業は、本校教員の資質を問われる関係上、普段以上の緊張感で接し、より自分自身の研究も必要となり、教員としての資質向上につながっていくものと考えています。

新規採用者は、採用年度に学校の教員としての適性を考える機会として、職務の遂行に必要な実践的指導力と使命感の修養ならびに幅広い知見の習得及び教育指導の充実を図るための課題の解決等を目的に外部研修に参加し、モチベーションを高めています。さらに、本校においても独自に指導教員が生徒との接し方や指導方法、事務的内容を伝授し、教員として一日も早い自立を目的として、年間10回の研修を実施し、終了後は受講についてのアンケートおよび校長や教頭を囲んでオフサイトミーティングを行い、翌年度の実施計画案に役立てました。

今後でもできる限り外部の講習会や研修会、出前授業に積極的に参加し、学校内では得ることのできない情報を吸収することで、新人からベテランまで教員としての資質向上に役立てていきたいと考えています。

令和5年度の中部私学研修会は、三重県が開催県で本校はその幹事校に当たっていたため前日の準備から開催日の二日間、ほぼ全員が参加しました。三重県総合文化会館で行われ、全体会は中ホールで行われ、本校の古川教頭が総合司会を務めました。各専門部会では学校経営、ICT教育、生徒指導、教育課程、等に分かれ中部圏から出席された各学校の先生方の研究発表があり、その後意見交換が行われ、有意義な二日間の研修となりました。他校の取り組み等を参考にしつつ、本校独自の取り組みを孝策していかなければならないと考えます。

令和5年度 初任者研修 年間計画表					
	研修テーマ	実施日時	担当者	研修場所	備考
1	初任研OR	4月 7日(金) 11:00~11:50	高梨	4号館会議室	副校長
2	高田の歴史と建学の精神について	4月10日(月) 14:40~15:30	学校長		学校長
3	学校法人の規定について	4月13日(木) 14:40~15:30	加藤		事務局長
4	コンプライアンス (服務規程と教育法規)	4月18日(火) 16:00~16:50	眞岡		教頭
5	教職の実務 中・高の教務	4月21日(金) 15:40~16:30	谷口		教務部長
6	生徒指導	4月24日(月) 15:40~16:30	福山		生徒指導部長
7	進路指導	4月28日(金) 15:40~16:30	伊藤7		進路指導部長
8	人権教育推進	5月 1日(月) 15:40~16:30	鈴木		人権教育委員
9	学校の危機管理	5月10日(水) 15:40~16:30	古川		教頭
10	特別支援教育・カウンセリング	5月12日(金) 15:40~16:30	的場・松尾		養護教育・学校カウンセラー

【生徒募集活動】

高田中・高等学校公開イベント

小学生を対象とした「学びのひろば in 高田」

地域交流事業の一つとして、小学生（4・5年生）を対象とした公開講座「学びのひろば in 高田」を年2回開催します。様々な分野に興味関心を持つ児童たちと探究する楽しさを共有しながら、本校の魅力や情報の発信にも努めています。第1回8月20日（日）は、89名の児童が参加しました。児童たちは互いに初対面同士でしたが、積極的にコミュニケーションをとりあって英語のゲ

ームやリズム運動にチャレンジし、また、北斗七星の模型作りにも一生懸命取り組んでいました。第2回令和6年2月11日（日・祝）は、97名の児童が参加しました。算数の問題を解くにあたっては、見方を変えることで難題も解けてしまう楽しさを味わってもらいました。また、富士山の立体模型を作りながら地形を学んだり、変体仮名を使った作品制作をしたりするプログラムにおいては、試行錯誤を重ね、時に歓声をあげながら、大変意欲的に受講していました。

学びのひろば in 高田

日 時	8月20日（日）	令和6年2月11日（日・祝）
テーマ	① たかだ夏季英語オリンピック 「チームで協力して勝利をめざせ！」	① たかだ冬季算数オリンピック 「発想力と考える力を試そう」
	② 理科「星座を作ってみよう！」	② 社会「楽しい社会科講座」
	③ 体育「つなげよう、心と体」	③ 書道「書道を楽しもう」
定 員	100名	112名



中学校入試説明会

本年度は、9月23日（土・祝）に、小学6年生の児童とその保護者を対象とした「中学校入試説明会」を開催し、270組の家族に参加していただきました。学校概要や来年度の入試説明に加え、各教科からの過去問題解説等も含めた、本校中学入試の説明を行いました。また、全体会終了後、希望者に対して、中学校生徒会役員メンバーの案内による「校内見学ツアー」を実施しました。

その他の生徒募集活動としては、広くマスコミを利用した広報活動や、塾を対象とした説明会を積極的に実施し、各地域で開催される私立中学展にも参加し、PRに努めています。

高等学校公開イベント・学校見学会・個別見学会

高等学校生徒募集活動では、各中学校で行われる入試説明会、市や塾等主催の説明会、進路フェスなどに参加し、教員が受験生と保護者に対し、入試や本校の教育内容について最新の情報を詳細に説明しています。

学校見学会は、3年ぶりにコロナ前の大々的なイベントとして、8月19日（土）に2つのグループに分け、計約1,410名の受験生と保護者の方々に、ご来校いただきました。

申し込みは、1週間ほどで満席となり、大変人気のイベントとなっています。

個別見学会については、第1回（10月21日）・第2回（11月4日）・第3回（11月18日）の土曜日に開催し、合計551名の中学生と保護者の方々にご参加いただきました。

どちらも本校の良さを理解していただけるよう、詳しい学校説明や校内見学・部活動見学等を行っています。

なお、経済的不安を抱えられている家庭については、国や県の就学支援制度などを活用することで、安心して教育が受けられる体制を整えていることをPRしています。



Web 出願システム

令和3年度より高校入試においてWeb 出願システムを導入し、令和4年度からは中学入試においてもWeb 出願システムを導入いたしました。これにより、志願者はWeb にて入試の出願が可能となり、入学検定料もクレジットカード等で決済ができるようになったため、出願処理がスムーズに行われるようになりました。さらに合否照会もこのWeb 出願システムで行えるので、入試処理作業の負担を大幅に軽減することができました。また、入試前の入試説明会や学校見学会、学びの広場など各種生徒募集イベントの申込みもWeb 出願システムを利用し、バーコードで出欠確認ができるなど、以前に比べ非常に利便性が向上しました。



施設整備の整備事業実績

職員室複合機（5台）入替

購入業者： 富士フイルム
ビジネスインベーションジャパン（株）
購入費用： 3,604,150円
購入時期： 7月31日



本館3階書道室1折りたたみテーブル、丸椅子入替

購入業者： 光スチール家具（株）
購入費用： 673,310円
購入時期： 7月31日



本山テニスコートトイレ改修工事

施行業者 : 藤原工業(株)
施行費用 : 1, 298, 000円
施工時期 : 8月1日～4日



正門ダウンライト視認性向上対策工事

施行業者 : 辻井電気設備
施行費用 : 180, 400円
施工時期 : 11月23日



ファイルサーバー(2台)およびネットワークサーバー(2台)入替

施行業者 : システムテクノ
施行費用 : 4, 142, 820円
施工時期 : 令和6年1月31日



財務の概要

資金収支計算書の概要

資金収支計算書は、会計年度の教育・研究その他の活動に対応するすべての収支内容並びに支払資金の収支のてん末を明らかにしたものです。

本学苑の資金収支決算総額は４８億６，６７５万円となり、前年度決算額と比較し３億１，０９２万円の増額となりました。

令和５年度 資金収支計算書総括

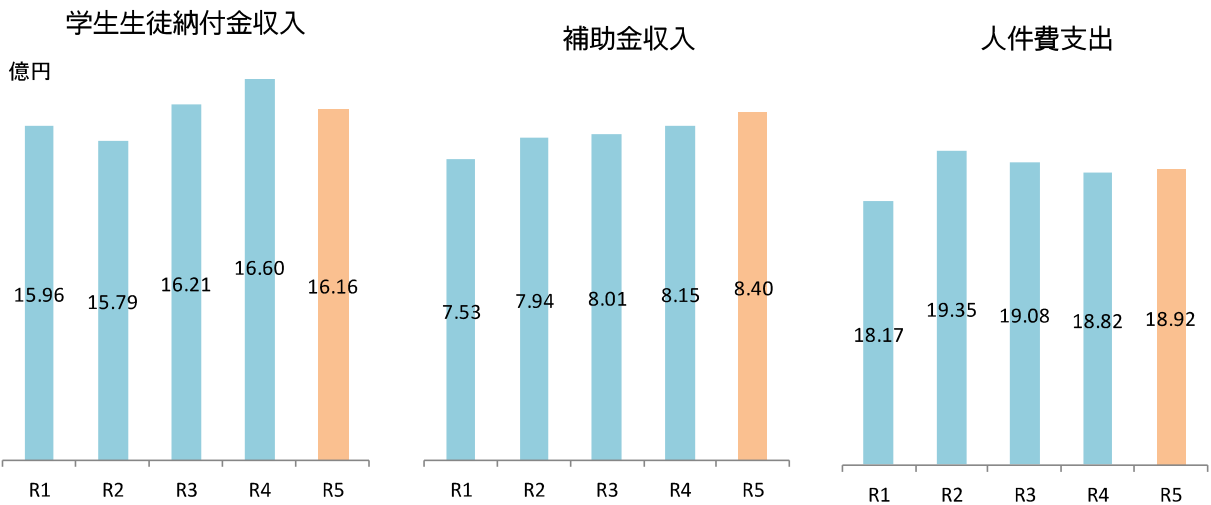
(単位：千円)

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,616,179	▼ 44,474	人件費支出	1,892,641	9,713
手数料収入	47,075	▼ 664	教育研究経費支出	405,299	18,920
寄付金収入	4,285	▼ 8,869	管理経費支出	117,764	1,609
補助金収入	840,908	25,097	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	220,000	20,000	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	25,263	3,411	施設関係支出	38,138	▼ 139,162
受取利息・配当金収入	11,243	225	設備関係支出	18,665	▼ 28,675
雑収入	167,891	46,461	資産運用支出	826,850	117,170
借入金等収入	0	0	その他の支出	1,156,759	39,677
前受金収入	267,645	▼ 18,395	資金支出調整勘定	△ 64,238	25,784
その他の収入	1,503,830	▼ 30,666			
資金収入調整勘定	△ 346,980	12,105			
当年度収入合計	4,357,339	4,231	当年度支出合計	4,391,878	45,036
前年度繰越支払資金	408,991	6,266	翌年度繰越支払資金	374,452	▼ 34,539
収入の部合計	4,766,330	10,498	支出の部合計	4,766,330	10,498

(注) △は計算書式上のマイナス表示、▼は比較上のマイナス表示（以下同じ）。

前年比は令和４年度決算との比較です。

主要科目の推移



令和5年度 資金収支計算書（短期大学）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	428,458	▼ 60,117	人件費支出	416,472	1,385
手数料収入	7,957	180	教育研究経費支出	152,584	3,132
寄付金収入	832	82	管理経費支出	34,893	2,324
補助金収入	110,388	▼ 7,668	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	25,263	3,411	施設関係支出	36,840	5,176
受取利息・配当金収入	1	▼ 0	設備関係支出	6,296	▼ 25,584
雑収入	14,330	2,043	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	195,273	9,213
前受金収入	44,910	280	資金支出調整勘定	△ 16,190	30,858
その他の収入	193,171	28,592			
資金収入調整勘定	△ 54,642	2,331			
当年度収入合計	770,669	▼ 30,867	当年度支出合計	826,168	26,504
前年度繰越支払資金	67,153	15,561	翌年度繰越支払資金	40,119	▼ 27,034
収入の部合計	837,821	▼ 15,306	支出の部合計	866,286	▼ 530

令和5年度 資金収支計算書（中・高等学校）

（単位：千円）

収入の部			支出の部		
科 目	決 算	前年比	科 目	決 算	前年比
学生生徒等納付金収入	1,187,722	15,643	人件費支出	1,466,413	16,111
手数料収入	39,118	▼ 844	教育研究経費支出	252,715	15,788
寄付金収入	3,453	1,050	管理経費支出	50,966	6,300
補助金収入	730,520	32,765	借入金等利息支出	0	0
資産売却収入	0	0	借入金等返済支出	0	0
付随事業・収益事業収入	0	0	施設関係支出	1,298	▼ 144,338
受取利息・配当金収入	2	▼ 0	設備関係支出	11,513	▼ 3,806
雑収入	133,547	26,513	資産運用支出	0	0
借入金等収入	0	0	その他の支出	771,843	23,849
前受金収入	222,735	▼ 18,675	資金支出調整勘定	△ 40,213	▼ 6,217
その他の収入	805,666	947			
資金収入調整勘定	△ 292,330	9,769			
当年度収入合計	2,830,431	67,168	当年度支出合計	2,514,536	▼ 92,312
前年度繰越支払資金	211,537	5,480	翌年度繰越支払資金	211,011	▼ 526
収入の部合計	3,041,968	72,648	支出の部合計	2,725,547	▼ 92,839

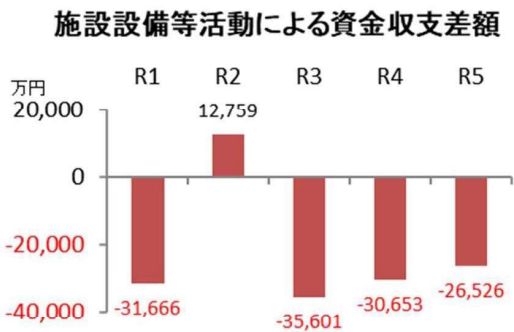
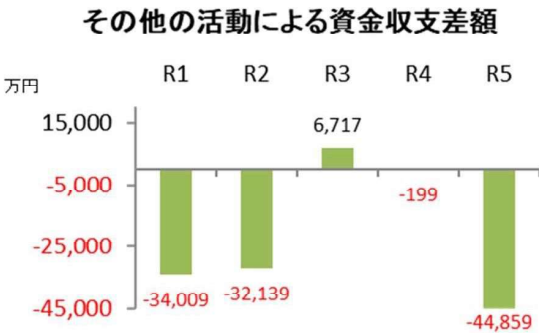
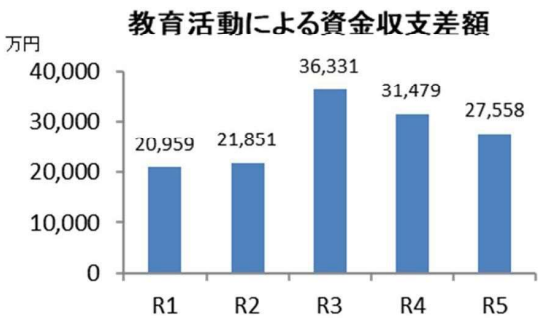
活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書では、資金収支計算書の決算額を「教育活動」「施設設備等活動」「その他の活動」の三つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにします。

令和5年度 活動区分資金収支計算書

(単位:千円)

科 目				決算額	前年比	科 目				決算額	前年比
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入		1,616,179	▼ 44,474	その他の活動による資金収支	収入	有価証券売却収入		220,000	20,000
		手数料収入		47,075	▼ 664			退職給与引当特定資産取崩収入		0	0
		特別寄付金収入		0	▲ 6,000			借入金等収入		0	0
		一般寄付金収入		4,285	▼ 2,869			預り金受入収入		851,705	29,296
		経常費等補助金収入		840,908	25,097			仮払金回収収入		29,828	11,845
		付随事業収入		25,263	3,411			立替金回収収入		44,242	4,539
		雑収入		167,891	46,461			修学旅行費預り資産取崩収入		67,959	867
		教育活動資金収入計		2,701,601	20,963			修学旅行費預り金受入収入		69,675	1,419
	支出	人件費支出		1,892,641	9,713		卒業諸費預り資産取崩収入		14,700	▼ 9	
		教育研究経費支出		405,299	18,920		卒業諸費預り金受入収入		15,023	308	
		管理経費支出		117,764	1,609		小計		1,313,133	68,266	
		教育活動資金支出計		2,415,704	30,243		受取利息・配当金収入		11,243	225	
差引		285,897	▼ 9,280	その他の活動資金収入計			1,324,376	68,491			
調整勘定等		△ 10,314	▲ 29,931	借入金等返済支出			0	0			
教育活動資金収支差額		275,584	▼ 39,211	有価証券購入支出			300,650	100,650			
施設設備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入		0	0		支出	退職給与引当特定資産繰入収入		5,000	5,000
		施設設備売却収入		0	0			預り金支払支出		851,331	27,504
		第2号基本金引当特定資産取崩収入		0	0			仮払金支払支出		29,828	11,845
		施設設備拡充引当特定資産取崩収入		337,490	▼ 61,696	立替金支払支出			5,362	▼ 39,095	
		施設設備等活動資金収入計		337,490	▼ 61,696	修学旅行費預り資産繰入支出			69,675	1,419	
		施設関係支出		38,138	▼ 139,162	修学旅行費預り金支払支出			67,959	867	
	支出	設備関係支出		18,665	▼ 28,675	卒業諸費預り資産繰入支出			15,023	308	
		第2号基本金引当特定資産繰入支出		0	0	卒業諸費預り金支払支出			14,700	▼ 9	
		施設設備拡充引当特定資産繰入支出		521,200	11,520	長期前払金支払支出			9,706	2,867	
		施設設備等活動資金支出計		578,003	▼ 156,317	小計			1,369,235	111,357	
		差引		△ 240,513	94,621	借入金等利息支出			0	0	
		調整勘定等		△ 24,750	▼ 53,350	その他の活動資金支出計			1,369,235	111,357	
	施設設備等活動資金収支差額		△ 265,264	41,271	差引			△ 44,859	▼ 42,865		
	小 計		10,320	2,060	調整勘定等			0	0		
					その他の活動資金収支差額			△ 44,859	▼ 42,865		
				支払資金の増減額		△ 34,539	6				
				前年度繰越支払資金		408,991	6,266				
				翌年度繰越支払資金		374,452	▼ 34,539				

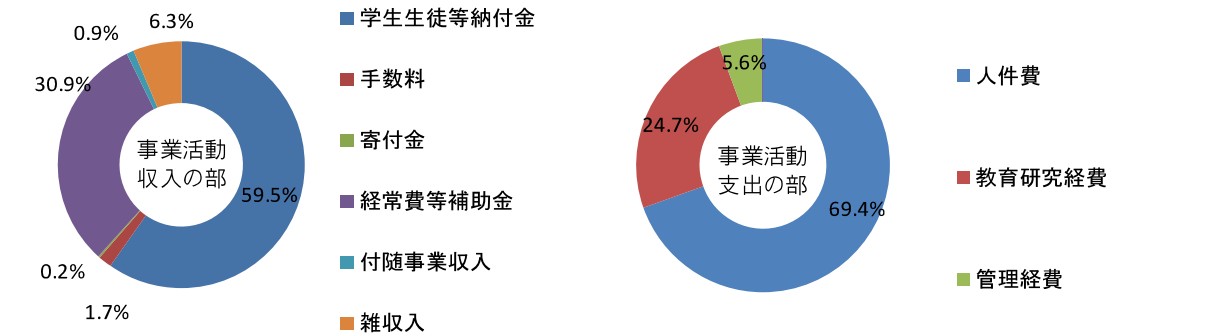


事業活動収支計算書の概要

事業活動収支計算書では、当該会計年度の諸活動に対応する事業活動収入・支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにします。収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外とに分けて把握することができます。

(単位：千円)

教育活動収入の部				特別収支			
科 目	決算額	%	科 目	決算額	%	科 目	決算額
事業活動収入の部			収入の活動の部			支出の活動の部	
学生生徒等納付金	1,616,427	59.5%	資産売却差額	0	0.0%	人件費	1,893,419
手数料	47,075	1.7%	その他の特別収入	0	0.0%	教育研究経費	674,930
寄付金	5,682	0.2%	本部負担金収入	0	0.0%	管理経費	151,933
経常費等補助金	840,908	30.9%	特別収入計	0	0.0%	徴収不能額等	674
付随事業収入	25,263	0.9%	資産処分差額	7,729	0.3%	教育活動支出計	2,720,956
雑収入	170,941	6.3%	その他の特別支出	0	0.0%		
教育活動収入計	2,706,295	99.6%	本部負担金	0	0.0%	教育活動収支差額	△ 14,661
事業活動支出の部			特別支出計	7,729	0.3%		
人件費	1,893,419	69.4%	特別収支差額	△ 7,729			
教育研究経費	674,930	24.7%	〔予備費〕				
管理経費	151,933	5.6%	基本金組入前当年度収支差額	△ 11,146			
徴収不能額等	674	0.0%	基本金組入額合計	△ 54,976			
教育活動支出計	2,720,956	99.7%	当年度収支差額	△ 66,122			
教育活動収支差額	△ 14,661		前年度繰越収支差額	△ 5,150,893			
収入の活動の部			基本金取崩額	0			
受取利息・配当金	11,243	0.4%	翌年度繰越収支差額	△ 5,217,015			
その他の教育活動外収入	0	0.0%					
教育活動外収入計	11,243	0.4%					
支出の活動の部							
借入金等利息	0	0.0%					
その他の教育活動外支出	0	0.0%					
教育活動外支出計	0	0.0%					
教育活動外収支差額	11,243						
経常収支差額	△ 3,418						



基本金について

基本金には第1号基本金から第4号基本金まで4種類の基本金があります。

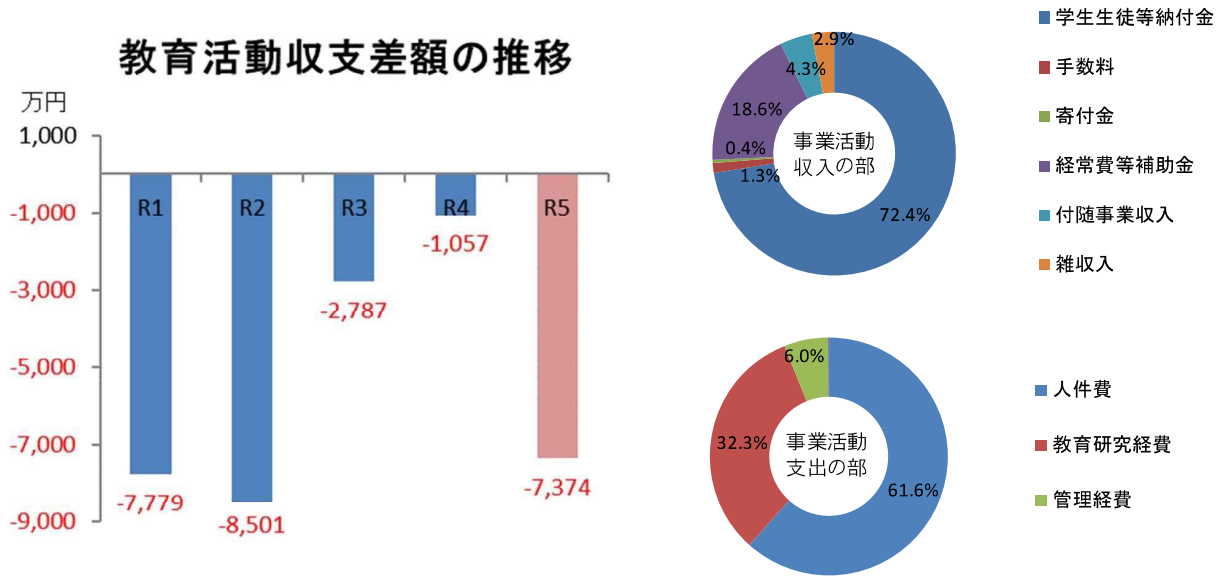
第1号基本金	施設設備の整備拡充のために支出した金額であり、本年度の組入額は1億6,109万円でした。主な内訳は、短大講堂空調設備改修工事及び短大大講義室等音響設備設置工事、中高職員室複合機更新、中高PCサーバー更新によるものです。
第2号基本金	施設設備を取得するため事前に組入れる金額で、本年度はありませんでした。
第3号基本金	教育・研究活動の維持向上を目的とした教育研究基金、奨学基金等の設定であり、本学苑は組入れを行っていません。
第4号基本金	学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額であり、今年度は妥当性の検証の結果、妥当と判断されるため、組入・取崩共に行っていません。

事業活動収支計算書

					(単位：千円)				
科 目		決算額	%	前年比	科 目		決算額	%	前年比
教育活動収支	事業活動収入の部				特別収支	収入事業活動			
	学生生徒等納付金	428,705	72.4%	▼ 59,869		資産売却差額	0	0.0%	0
	手数料	7,957	1.3%	180		その他の特別収入	0	0.0%	0
	寄付金	2,208	0.4%	1,406		本部負担金収入	0	0.0%	0
	経常費等補助金	110,388	18.6%	▼ 7,668		特別収入計	0	0.0%	0
	付随事業収入	25,263	4.3%	3,411		支出事業活動			
	雑収入	17,380	2.9%	4,165		資産処分差額	539	0.1%	539
	教育活動収入計	591,902	100.0%	▼ 58,375		その他の特別支出	0	0.0%	0
	人件費	410,228	61.6%	▼ 8,586		本部負担金	0	0.0%	0
	教育研究経費	215,016	32.3%	10,358		特別支出計	539	0.1%	539
	管理経費	39,733	6.0%	2,353		特別収支差額	△ 539		▼ 539
	徴収不能額等	674	0.1%	674		〔予備費〕			0
	教育活動支出計	665,650	99.9%	4,799		基本金組入前当年度収支差額	△ 74,287		▼ 63,714
	教育活動収支差額	△ 73,748		▼ 63,175		基本金組入額合計	△ 48,206		▼ 51,075
教育活動外収支	収入事業活動				当年度収支差額		△ 122,492		▼ 114,789
	受取利息・配当金	1	0.0%	▼ 0	前年度繰越収支差額		△ 2,689,482		▼ 7,703
	その他の教育活動外収入	0	0.0%	▼ 0	基本金取崩額		0		0
	教育活動外収入計	1	0.0%	▼ 0	翌年度繰越収支差額		△ 2,811,913		▼ 122,431
	支出事業活動				(参考)				
	借入金等利息	0	0.0%	0	事業活動収入計		591,903		▼ 58,375
	その他の教育活動外支出	0	0.0%	0	事業活動支出計		666,189		5,338
	教育活動外支出計	0	0.0%	0					
教育活動外収支差額		1		▼ 0					
経常収支差額		△ 73,748		▼ 63,175					

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R3	R4	R5	全国平均	比 率	R3	R4	R5	全国平均
人件費率	67.4	64.4	69.3	63.9	学生生徒等納付金比率	75.7	75.1	72.4	74.8
人件費率	89.1	85.7	95.7	85.4	経常寄付金率	0.3	0.1	0.4	1.0
教育研究経費率	31.3	31.5	36.3	39.6	経常補助金率	17.4	18.2	18.6	16.3
管理経費率	5.6	5.7	6.7	10.2	減価償却額率	9.6	9.1	10.0	12.5
借入金等利息率	0.0	0.0	0.0	0.1	経常収支差額率	△ 4.3	△ 1.6	△ 12.4	△ 14.0
事業活動収支差額比率	△ 4.4	△ 1.6	△ 12.5	△ 14.4	教育活動収支差額比率	△ 4.3	△ 1.6	△ 12.4	△ 15.2
基本金組入後収支比率	106.1	101.2	122.5	120.6	※全国平均は前年度の値				



中・高等学校

事業活動収支計算書

(単位：千円)

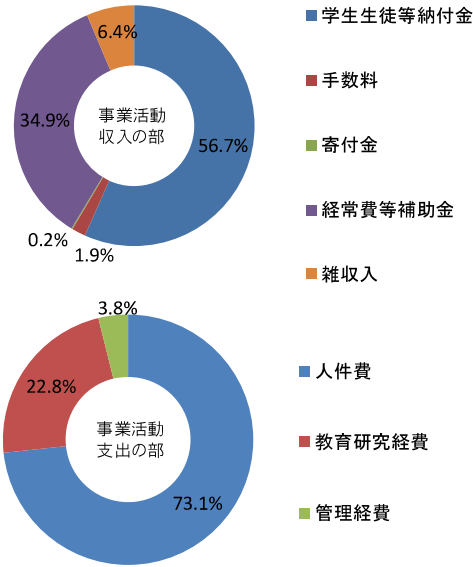
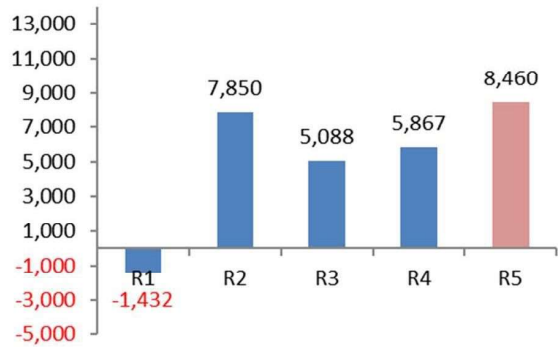
科 目					科 目						
		決算額	%	前年比			決算額	%	前年比		
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,187,722	56.7%	15,643	特別収支	収入の事業活動	資産売却差額	0	0.0%	0
		手数料	39,118	1.9%	▼ 844			その他の特別収入	0	0.0%	0
		寄付金	3,473	0.2%	▼ 2,652			本部負担金収入	0	0.0%	0
		経常費等補助金	730,520	34.9%	32,765			特別収入計	0	0.0%	0
		付随事業収入	0	0.0%	0		支出の事業活動	資産 処分 差額	5,678	0.3%	5,297
		雑収入	133,547	6.4%	26,513			その他の特別支出	0	0.0%	0
		教育活動収入計	2,094,379	100.0%	71,425			本 部 負 担 金	0	0.0%	0
		事業活動支出の部	人件費	1,473,434	73.1%			25,892	特別支出計	5,678	0.3%
	教育活動支出の部	教育研究経費	459,915	22.8%	12,588	特別収支差額		△ 5,678		▼ 5,297	
		管理経費	76,427	3.8%	7,013	〔予備費〕				0	
		徴収不能額等	0	0.0%	0	基本金組入前当年度収支差額		78,928		20,635	
		教育活動支出計	2,009,776	99.7%	45,493	基本金組入額合計		△ 5,359		156,879	
		教育活動収支差額		84,603		25,932	当年度収支差額		73,568		177,514
		教育活動外収支	収入の事業活動	受取利息・配当金	2	0.0%	▼ 0	前年度繰越収支差額		△ 316,268	
その他の教育活動外収入	0			0.0%	0	基本金取崩額		0		0	
教育活動外収入計	2			0.0%	▼ 0	翌年度繰越収支差額		△ 242,700		71,525	
支出の事業活動	借入金等利息		0	0.0%	0	(参考)					
	その他の教育活動外支出		0	0.0%	0						
	教育活動外支出計		0	0.0%	0						
	教育活動外収支差額		2		▼ 0						事業活動収入計
経常収支差額		84,605		25,932	事業活動支出計		2,015,454		50,790		

財務比率推移表（事業活動収支関係）

比 率	R3	R4	R5	全国平均	比 率	R3	R4	R5	全国平均
人 件 費 率	75.1	71.6	70.4	63.2	学 生 生 徒 等 納 付 金 比 率	57.6	57.9	56.7	52.8
人 依 存 費 率	130.3	123.5	124.1	119.7	経 常 寄 付 金 率	0.2	0.3	0.2	1.6
教 育 研 究 経 費 率	19.1	22.1	22.0	29.9	経 常 補 助 金 率	35.0	34.5	34.9	37.5
管 理 経 費 率	3.2	3.4	3.6	5.9	減 価 償 却 額 率	12.7	11.9	11.6	11
借 入 金 等 利 息 率	0.0	0.0	0.0	0.3	経 常 収 支 差 額 率	2.6	2.9	4.0	0.8
事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	2.5	2.9	3.8	1.8	教 育 活 動 収 支 差 額 比 率	2.6	2.9	4.0	0.3
基 本 金 組 入 後 収 支 比 率	97.4	105.6	96.5	107	全国平均は前年度の値				

教育活動収支差額の推移

万円



令和5年度補助金一覧表

(単位：千円)

補 助 金 名	当 年 度 ①	前 年 度 ②	差 異 ①－②
短期大学補助金 合計	110,388	118,056	△ 7,668
国庫補助金 計	110,311	117,973	△ 7,662
私立大学等経常費補助金	75,563	85,038	△ 9,475
授業料等減免費交付金	34,748	32,935	1,813
地方公共団体補助金 計	77	83	△ 6
結核健康診断予防接種費補助金	77	83	△ 6
中・高等学校補助金 合計	730,520	697,754	32,766
高等学校補助金 計	559,939	533,893	26,046
国庫補助金 計	0	200	△ 200
学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援)	0	200	△ 200
地方公共団体補助金 計	559,939	533,693	26,246
私立高等学校等振興補助金	548,811	524,721	24,090
授業料減免補助金	43	10	33
入学金補助金	1,103	1,260	△ 158
人権教育推進事業費補助金	0	296	△ 296
結核健康診断予防接種費補助金	208	201	7
外国人語学指導助手補助金	380	300	80
教育改革推進事業補助金	300	300	0
私立高等学校振興補助金 (津市)	2,568	2,553	15
私立高等学校振興補助金 (鈴鹿市)	260	260	0
私立学校物価高騰対策支援補助金	6,267	3,793	2,474
中学校補助金 計	170,581	163,861	6,720
国庫補助金 計	0	140	△ 140
学校保健特別対策事業費補助金 (学校等における感染症対策等支援)	0	140	△ 140
地方公共団体補助金 計	170,581	163,721	6,860
私立高等学校等振興補助金	168,492	162,349	6,143
人権教育推進事業費補助金	0	107	△ 107
私立学校物価高騰対策支援補助金	2,089	1,265	824
総 計	840,908	815,810	25,098

貸借対照表の概要

貸借対照表は、令和6年3月31日現在の財政状態を示しています。

令和5年度 貸借対照表（総括）

（単位：千円）

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	8,074,072	8,045,286	28,786
有形 固定 資産	5,843,957	6,084,689	△ 240,732
土 地	1,025,123	1,025,123	0
建 物	3,903,050	4,064,688	△ 161,638
構 築 物	563,914	628,327	△ 64,413
教育研究用機器備品	74,998	79,859	△ 4,861
管理用機器備品	10,953	11,396	△ 443
図 書	228,348	232,162	△ 3,814
車 輜	7,651	13,215	△ 5,564
学 苑 林	29,919	29,919	0
建 設 仮 勘 定	0	0	0
特定資産	2,175,949	1,908,101	267,848
退職給与引当特定資産	268,490	263,490	5,000
施設設備拡充引当特定資産	1,907,459	1,644,611	262,848
第2号基本金引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	54,166	52,496	1,670
借 地 権	2,258	2,258	0
電 話 加 入 権	1,286	1,286	0
施 設 利 用 権	71	142	△ 71
ソフトウェア	21,415	26,870	△ 5,455
有 価 証 券	13,298	13,298	0
差し入れ保証金	350	350	0
長 期 前 払 金	15,489	8,292	7,196
流動資産	502,929	583,850	△ 80,922
現金預金	374,452	408,991	△ 34,539
未 収 入 金	60,940	73,634	△ 12,694
前 払 金	3,243	91	3,152
立 替 金	80	38,960	△ 38,880
修学旅行費預り資産	58,116	56,400	1,716
卒業諸費預り資産	6,097	5,774	323
資産の部合計	8,577,001	8,629,136	△ 52,135
固定負債	267,134	266,357	777
長期借入金	0	0	0
退職給与引当金	267,134	266,357	777
流動負債	422,381	464,147	△ 41,766
短期借入金	0	0	0
未 払 金	64,147	89,931	△ 25,784
前 受 金	267,645	286,040	△ 18,395
預 り 金	26,376	26,002	374
修学旅行費預り金	58,116	56,400	1,716
卒業諸費預り金	6,097	5,774	323
負債の部合計	689,515	730,504	△ 40,989
基本金	13,104,501	13,049,525	54,976
第1号 基本金	12,932,501	12,877,525	54,976
第2号 基本金	0	0	0
第4号 基本金	172,000	172,000	0
繰越収支差額	△ 5,217,015	△ 5,150,893	△ 66,122
翌年度繰越収支差額	△ 5,217,015	△ 5,150,893	△ 66,122
純資産の部合計	7,887,486	7,898,632	△ 11,146
負債及び純資産の部合計	8,577,001	8,629,136	△ 52,135

注記 1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

○徴収不能引当金・・・・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

○退職給与引当金

(短期大学) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 147,937,110円 の100%を基にして私立大学退職金財団に対する掛金の累積額と交付金の累積額との繰入調整額を加減した金額を計上している。

(中学校及び高等学校) 退職金の支給に備えるため、期末要支給額 1,054,729,433円 から三重県私学振興会より交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。

(2) その他重要な会計方針

○有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

2. 重要な会計方針の変更等

該当無し

3. 減価償却額の累計額の合計額 **7,100,189,719円**

4. 徴収不能引当金の合計額 **0円**

5. 担保に供されている資産の種類及び額 **0円**

6. 翌会計年度以降の会計年度において基本金へ組入れを行うこととなる金額 **6,756,190円**

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

① 総括表

(単位 円)

	当年度 (令和6年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	253,297,674	281,736,898	28,439,224
(うち満期保有目的の債券)	(200,000,000)	(200,910,000)	(910,000)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	970,649,860	908,729,685	△61,920,175
(うち満期保有目的の債券)	(970,649,860)	(908,729,685)	(△61,920,175)
合 計	1,223,947,534	1,190,466,583	△33,480,951
(うち満期保有目的の債券)	(1,170,649,860)	(1,109,639,685)	(△61,010,175)
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	1,223,947,534		

② 明細表

(単位 円)

種 類	当年度 (令和6年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債 券	1,050,649,860	1,005,140,200	△45,509,660
株 式	3,297,674	30,665,898	27,368,224
投資信託	170,000,000	154,660,485	△15,339,515
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合 計	1,223,947,534	1,190,466,583	△33,480,951
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	1,223,947,534		

財務比率推移表

(単位：％)

比 率	R3	R4	R5	全国平均	評	算式 (×100)	説 明
固 定 資 産 率	93.1	93.2	94.1	85.3	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
有 形 固 定 資 産 率	72.0	70.5	68.1	59.4	▼	$\frac{\text{有 形 固 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	土地・建物等の有形固定資産の構成比が資産構成上バランスがとれているか
特 定 資 産 率	20.9	22.1	25.4	20.4	△	$\frac{\text{特 定 資 産}}{\text{総 資 産}}$	長期に亘って特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況はどうか
流 動 資 産 率	6.9	6.8	5.9	14.7	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{総 資 産}}$	資産構成の全体的なバランスはどうか
固 定 負 債 率	3.1	3.1	3.1	5.7	▼	$\frac{\text{固 定 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	長期的な負債構成のバランスと比重はどうか
流 動 負 債 率	5.0	5.4	4.9	4.8	▼	$\frac{\text{流 動 負 債}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	短期的な負債構成のバランスと比重はどうか
内 部 留 保 率	17.7	18.5	21.9	27.5	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	特定資産と有価証券と現金預金を合計した「運用資産」から総負債を引いた金額の総資産に占める割合はどうか
運 余 裕 資 産 率	82.0	83.4	91.9	1.8	△	$\frac{\text{運 用 資 産} - \text{外 部 負 債}}{\text{経 常 支 出}}$	一年間の経常的な支出規模に対してどの程度の運用資産が蓄積されているか
純 資 産 率	91.9	91.5	92.0	89.6	△	$\frac{\text{純 資 産}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	純資産の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
繰 越 収 支 差 額 率	△ 58.2	△ 59.7	△ 60.8	△ 22.5	△	$\frac{\text{繰 越 収 支 差 額}}{\text{総 負 債} + \text{純 資 産}}$	繰越収支差額の、総負債および純資産の合計額に占める構成割合はどうか
固 定 比 率	101.4	101.9	102.4	95.2	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産}}$	土地・建物等の固定資産に対してどの程度純資産が投下されているか
固 定 長 期 適 合 率	98.1	98.5	99.0	89.6	▼	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{純 資 産} + \text{固 定 負 債}}$	自己資金のほか長期借入金で固定資産を取得する原則にどの程度適合しているか
流 動 比 率	135.9	125.8	119.1	308.7	△	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	1年以内に償還する流動負債に対して1年以内に現金化が可能な流動資産はどの程度用意されているか
総 負 債 比 率	8.1	8.5	8.0	10.4	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 産}}$	純資産に対する他人資金の比重はどうか
負 債 比 率	8.8	9.2	8.7	11.6	▼	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{純 資 産}}$	他人資金である総負債が自己資金である純資産を上回っていないか
前 保 受 有 金 率	141.1	143.0	139.9	524.1	△	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	翌年度分の入学金等が現金預金の形で適切に保有されているか
退 職 給 与 引 当 特 定 資 産 保 有 率	100.1	98.9	100.5	57.8	△	$\frac{\text{退 職 給 与 引 当 特 定 資 産}}{\text{退 職 給 与 引 当 金}}$	退職給与引当金に見合う資産を特定資産としてどの程度保有しているか
基 本 金 比 率	101.3	101.0	101.3	97.5	△	$\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$	基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合はどうか
減 価 償 却 比 率	50.3	54.6	56.0	57.4	～	$\frac{\text{減 価 償 却 累 計 額 (図 書 除 く)}}{\text{減 価 償 却 資 産 取 得 価 額 (〃)}}$	減価償却累計額が取得価格に対してどの程度占めているか
積 立 率	33.8	32.8	34.8	67.2	△	$\frac{\text{運 用 資 産}}{\text{要 積 立 額}}$	持続的かつ安定的な経営を継続するために必要な運用資産の保有状況はどうか

評価指標 △：高い値が良い ▼：低い値が良い ～：どちらともいえない

全国平均は前年度の値

財産目録

(単位：千円)

一、資産	総額	8,577,001
1. 基本財産	5,835,453	
2. 運用財産	2,741,548	
二、負債	689,515	
三、正味財産	7,887,486	

項目	数量	金額
(一) 資産		8,577,001
1. 基本財産		5,835,453
(ア) 土地	102,865.92 ㎡	1,025,123
(イ) 建物	41,560.74 ㎡	3,903,050
(ウ) 構築物	223 点	563,914
(エ) 図書	104,627 冊	228,348
(オ) 教育研究用機器備品	18,881 点	74,998
(カ) 管理用機器備品	215 点	10,953
(キ) 車輜	10 台	7,651
(ク) ソフトウェア	7 本	21,415
(ケ) 建設仮勘定		0
2. 運用財産		2,741,548
(ア) 現金及び預金		374,452
(イ) 修学旅行費預り資産		58,116
(ウ) 卒業諸費預り資産		6,097
(エ) 未収入金		60,940
(オ) 借地権	1 点	2,258
(カ) 電話加入権	15 基	1,286
(キ) 施設利用権	3 点	71
(ク) 差し入れ保証金		350
(ケ) 有価証券	142,917.00 株	13,298
(コ) 土地	61,913.00 ㎡	29,919
(サ) 退職給与引当特定資産		268,490
(シ) 施設設備拡充引当特定資産		1,907,459
(ス) 第2号基本金引当特定資産		0
(セ) 長期前払金		15,489
(ソ) 前払金		3,243
(タ) 立替金		80
(二) 負債		689,515
1. 固定負債		267,134
(ア) 長期借入金		0
(イ) 退職給与引当金		267,134
2. 流動負債		422,381
(ア) 短期借入金		0
(イ) 未払金		64,147
(ウ) 前受金		267,645
(エ) 預り金		90,589
(1) 職員源泉等預り金		26,376
(2) 修学旅行費預り金		58,116
(3) 卒業諸費預り金		6,097

